抜粋版

平成 29 年度

はがき新聞実践事例集

公益財団法人 理想教育財団

目　次

●三 重 県　鈴鹿市立神戸小学校・・・・・・・・・・大西　真人・・・1
●愛 知 県　名古屋市立弥富小学校・・・・・・・・木村　理子・・・7
●京 都 府　城陽市立深谷小学校・・・・・・・・・・谷口　卓真・・・11
●千 葉 県　市川市立大和田小学校・・・・・・・・流　雄希・・・15
●千 葉 県　八千代市立八千代台小学校・・・村上　佳子・・・17
●沖 縄 県　沖縄県立森川特別支援学校・・・比嘉　美保・・・23
●岩 手 県　盛岡市立繋中学校・・・・・・・・・・・川崎 美希子・・・27
●京 都 府　京都市立西院中学校・・・・・・・・・・石田　典子・・・32
●神奈川県　相模原市立鵜野森中学校・・・・・榎本　典子・・・35

この「はがき新聞実践事例集（抜粋版）」は平成 29 年度における
はがき新聞実践校様からのリポートの抜粋です。
お忙しい中ご協力頂きました多くの実践校の皆様に深く感謝申し上げます。
尚、執筆者の所属は平成 29 年度実践時に在籍されていた学校名になっています。

公益財団法人理想教育財団

報告日：平成 30 年 3 月 27 日

公益財団法人理想教育財団　御中

〔所在地〕〒513-080　三重県鈴鹿市神戸 2 丁目 12-10

〔学校名〕 鈴鹿市立神戸小学校

〔報告者名〕 大西　真人

〔電話〕 059-382-0242

『はがき新聞』を活用しよう～3 年生の実践から～

1　『はがき新聞』を活用する目的

本校児童のこれまでの伝え合う力を振り返ってみると，自己主張はするものの，自分の思いを言葉で分かりやすく伝えることや，互いに相手の思いを受け止めて話すというような伝え合いの力には課題がみられる。また，話す相手が複数以上になると，互いにどのような関わり方をしたらよいのかが分からず，戸惑う様子も見られる。このような状況は，相手に対して自分の伝えたいことをどのように伝えたらよいかという技能や表現力に起因するものと考えられる。そこで，児童の伝え合う力を高めるために，話す技能や話を聞き取る力を身に付けさせ，児童自身が伝え合いを楽しいと感じ，伝え合うことへの意欲を持つことが大切だと考える。そのためには，話すことや聞くことのみならず，書くこととの連続性を考慮することも大切だと考える。

そこで，国語科だけでなくすべての教科の中で言語活動の充実に努めていき，一人一人の言語の力を高め，言語に着目した学びの充実を図っていきた。その一つの手段として，昨年度より全教職員で『はがき新聞』を活用した取り組みを実施している。全校児童が図書室で読んだ本の紹介をする「この本よかったよ」は，工夫して書ける児童が増え，全校で定着した取り組みになってきた。

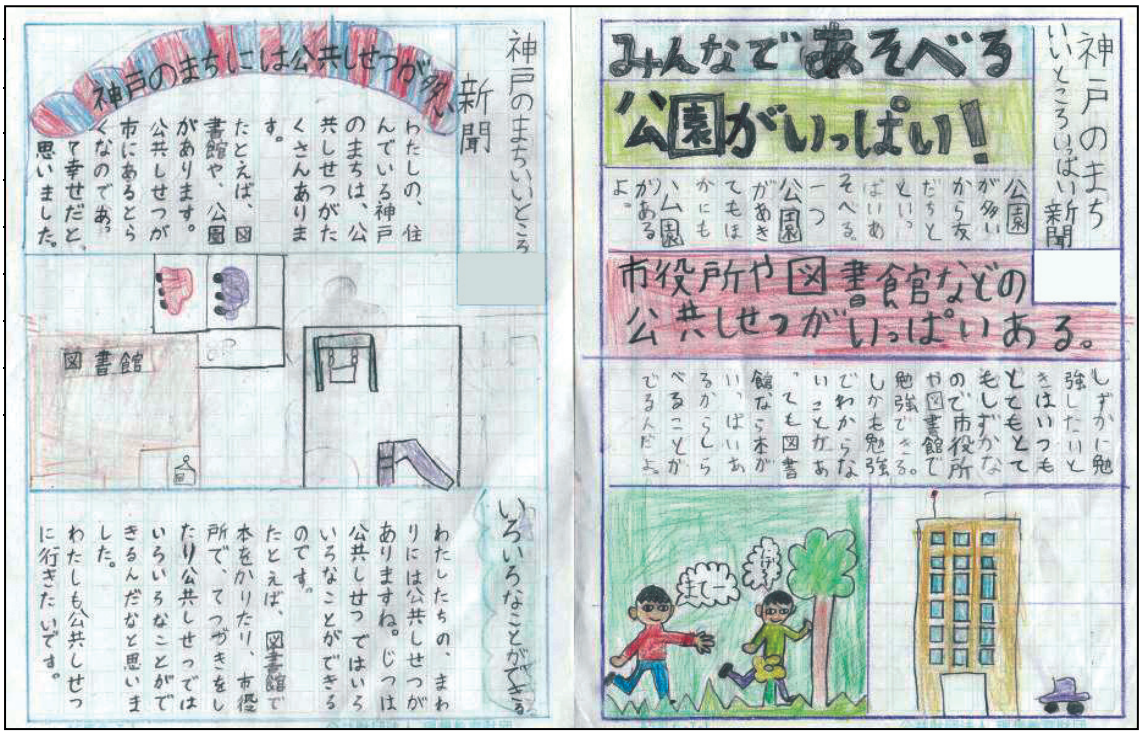
2　『はがき新聞』を活用にあたっての指導上の留意点

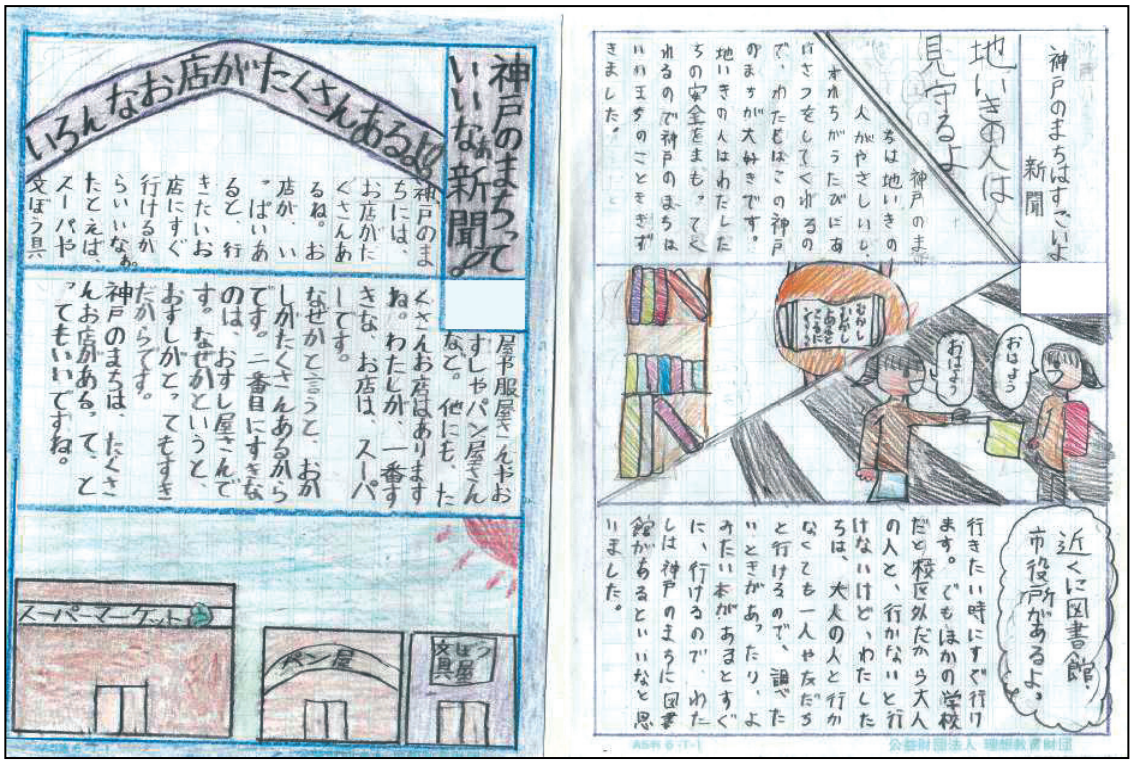
・全体研修会で紹介した『はがき新聞』の書き方を大切にする。
・全教員が子どもたちの模範となるようにはがき新聞を活用して「この本よかったよ」に取り組み，図書室に掲示する。
・各教科で取り組んだ作品を紹介し，データとして保存しておく。
・子どもたちに『はがき新聞』に親しみをもって取り組ませる。

はがき新聞実践報告書　指定用紙

３　実践紹介①　『神戸の町はかせになろう～神戸の町のいいところ～』

３年生では総合的な学習の時間や社会科の授業を通して「神戸の町はかせになろう」という取り組みをしている。３学期には町のいいところについて，はがき新聞で伝えるという取り組みを実施した。本の紹介以外で新聞を書く取り組みは初めてであったが，いいところの紹介と感想を分けて書いたり，イラストや見出しを効果的に使ったりするなど，３年生なりにまとめる力もついてきた。





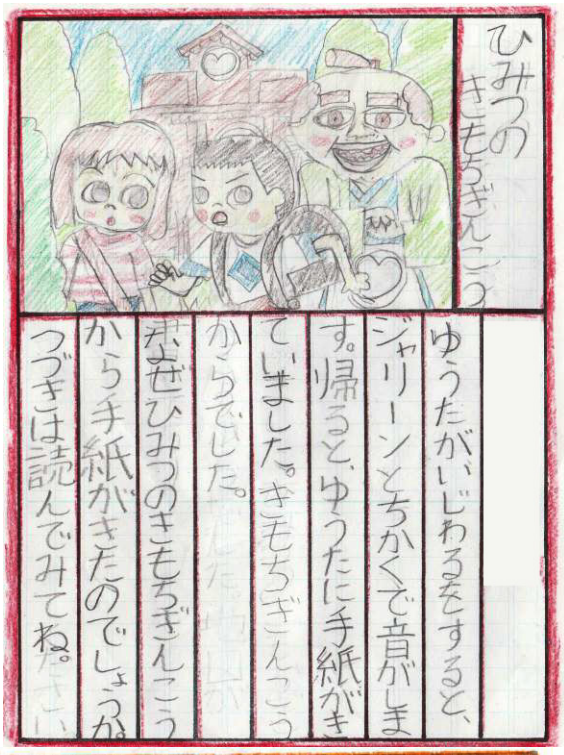
はがき新聞実践報告書　指定用紙

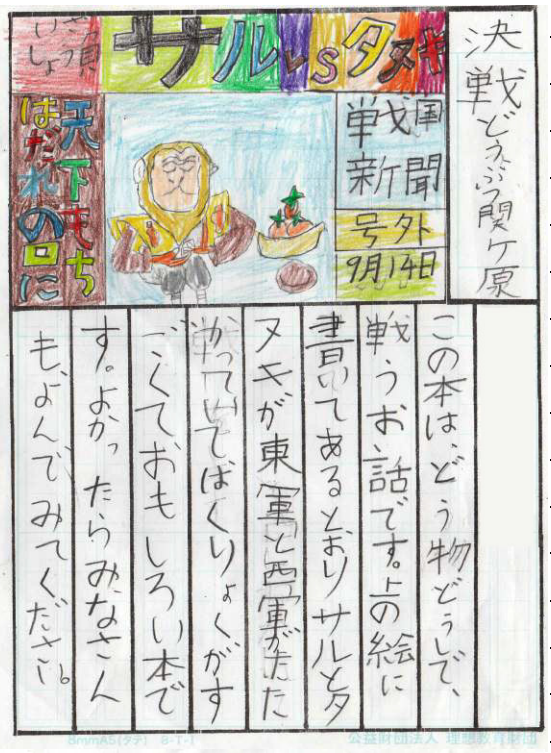
『はがき新聞』に年間を通して取り組んだこともあり，多くの子どもたちは，「書くのが楽しくなってきた」「(量的に) これならまとめやすい」と感じていた。限られた紙面に自分の書きたいことをまとめて書くことが，回を重ねるにつれてうまくなってきた。成果物としても掲示して見られることも，子どもたちのやる気を引き出させた。また，限られた文字数でまとめる力やレイアウトする力もついてきた。高学年では新聞を活用する機会がますます増えることが予想されるので，表現力を深める活動としても有効だと思う。

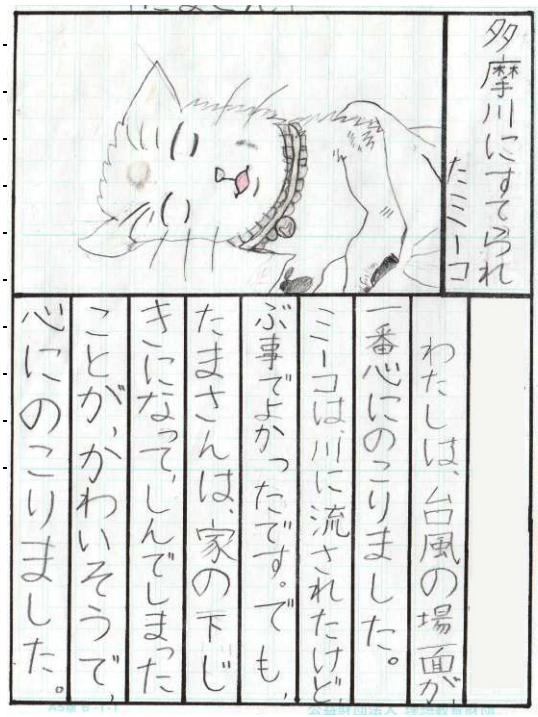
文を書くのが苦手な子もイラストを生かしたりタイトルや小見出しを工夫したりできるので，満足感を得られる新聞になり，一生懸命に取り組む姿が印象的だった。

実践紹介②　お気に入りの本紹介「この本よかったよ」

全校で取り組んでいる「この本よかったよ」であるが，低学年では，はがき新聞はマス目が小さいから難しいと感じて，はがき新聞に教師が線を入れた共通のレイアウトのはがき新聞を使って取り組んできた。今年も３年生では同じように取り組んだ。実践紹介①のように工夫したはがき新聞が書けたのは，きまった形式のもので始めたことがよかったように感じる。







国語の授業で実際に新聞について学習した３年生にとって，自分たちが書いた「この本よかったよ」の取り組みを，さらにバージョンアップさせることにつながり，効果的だった。一番伝えたいことを中心に書くことを重視した点は同じで，これ以降の取り組みの基盤となった。

４　成果と課題

昨年度は『はがき新聞』の取り組みを２年間取り組んでいる学年の紹介ができたが，今年度はこれまで，本の紹介以外では取り組んでいなかった学年にスポットを当てて定着を図ってきた。書く回数を重ねることで，子ども達がはがき新聞を使うことに楽しそうな表情で取り組んでいたのが印象的だった。２年生まではがき新聞をどう指導していいか迷っていとこともあり，３年生のすべての学級（４学級）が新聞を抵抗なく取り組めるように，学年集会の場で，はがき新聞の書き方について，書く順番も含めて，プレゼンを使って紹介した。その結果，イメージが膨らんだようで，不安に感じている子にも「これなら書ける！」という安心感を持たせることができた。

文字数が少ない中で伝えたいことをいかに表現するかは，国語の授業の中でも見出しや小見出し，イラストの効果などと合わせて指導してきたが，使えるときにどんどん取り組ませていくことが何より効果があると実感した。丁寧に書きすぎて時間差が出てくることもあるが，家庭学習における自主学習などとも合わせて指導していけると，率先してさまざまな形ではがき新聞を活用していけるのではないかと考えている。若手教員が年々増えている職場である。はがき新聞を使った取り組みを実践していく中で，授業力向上や学力向上につなげていきたい。

公益財団法人理想教育財団　御中

〔所在地〕〒４６７－００４７愛知県名古屋市瑞穂区日向町４丁目２３の１

〔学校名〕名古屋市立弥富小学校

〔報告者名〕木村　理子　㊞

〔電話〕０５２－８３１－８１３４

①学習のねらい

次の３点のねらいを目指し実践を行った。

(ⅰ)児童の語彙を増やし、より豊かな言語表現を目指す。

(ⅱ)語彙が増えることによって、感情や情景をより詳しく表現することができることを目指す。

(ⅲ)語彙が増えることによって、文章の読み取り、・理解を深めることができるようにする。

特に、(ⅲ)の文章の読み取り・理解を深めることができるようにすることに重点をおいて実践を行った。

②指導上の注意点

小学校４年生対象「ごんぎつね」で実践を行った。

(ⅰ)「ごんの気持ちは兵十に伝わったか」というテーマで話し合いを行い、自分の考えを伝えるためにはがき新聞にまとめる活動を行った。

「伝わった」と考える児童は、「おや」「目を落とした」「ばたり」「青いけむり」などの言葉に着目して、解釈をすることができた。「『青いけむり』は兵十の後悔を表していると思う」と解釈した児童もいた。言葉に着目して解釈をする態度が見られたのは、「私の見つけた言葉ノート」で辞書を引く意識が高まったおかげである。多くの子が辞書を使って、言葉を調べ理解を深める姿が見られるようになった。

最初は「伝わっていない」と考えていた児童が、言葉に着目した話し合いを進めることで、「伝わった」に変わった児童もいた。

しかし、本来は「伝わった部分もあるけれど、伝わっていない部分もある。」という結論まで到達してほしかった。ごんがくりやまつたけをもってきていたということは伝わったが、おっかあの死に責任を感じてつぐないのために持ってきていたということまでは伝わっていない」というところまでは、児童の話し合いでは達しなかった。もっと言葉に忠実に読み取る力を付ける必要があっ

た。「私の見つけた言葉ノート」を活用して、言葉の感覚を磨くことを重ることが大切である。

(ⅱ)上記の学習を終えた後、はがき新聞を提示して、自分の考えを伝えるために、はがき新聞の表現する活動を行った。

手順としては、以下のように進めた。

(ア)はがき新聞をかく主旨を説明する

(イ)はがき新聞の例を見せる

(ウ)レイアウトを説明する

(エ)書くときのポイントを伝える

「見出しを付けること」「色鉛筆できれいに色を付けること」「見やすいようにペンで本書きをすること」「文章とイラストを入れること」などを説明した。

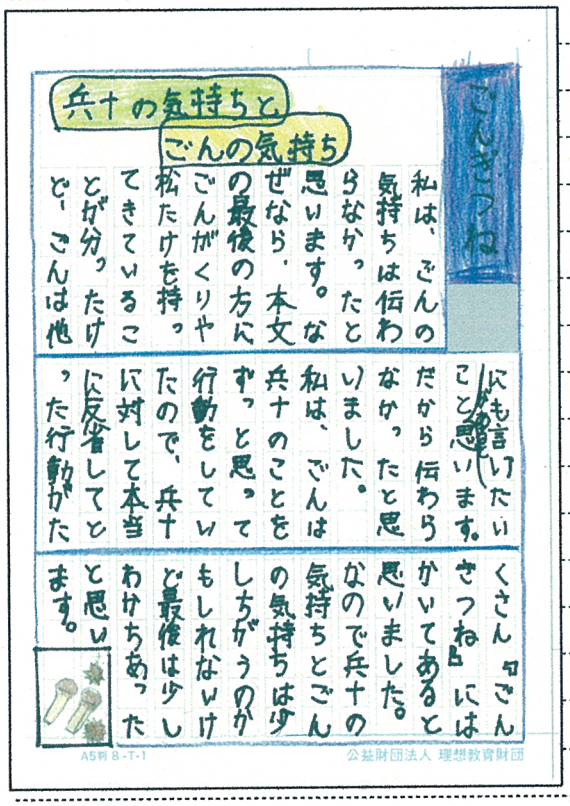
書くことを悩んでいる児童には、教師が個別にレイアウトや内容についてアドバイスを行った。

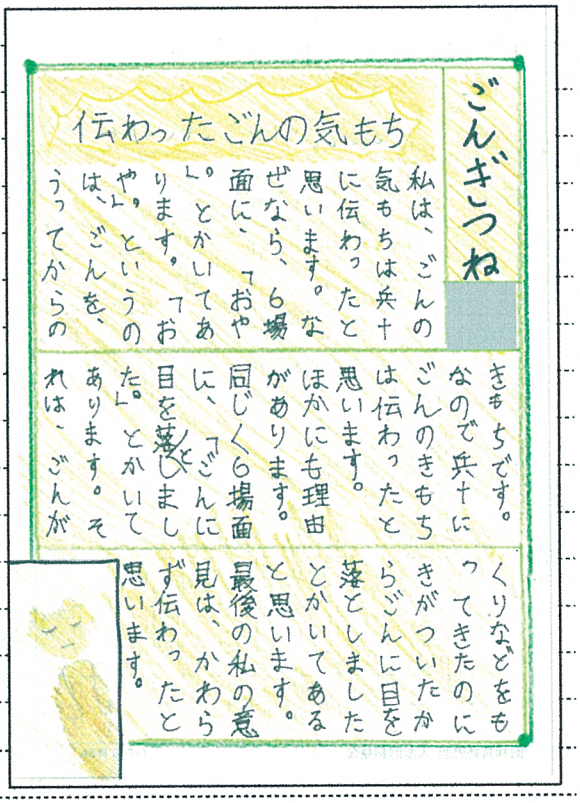
③生徒の感想

とても楽しんで活動を行っていた。「(例を見て) すごい！こんなふうに書いてみたい」「マス目があるから書きやすい」「上手にかくことができて嬉しい」などと言っていた。

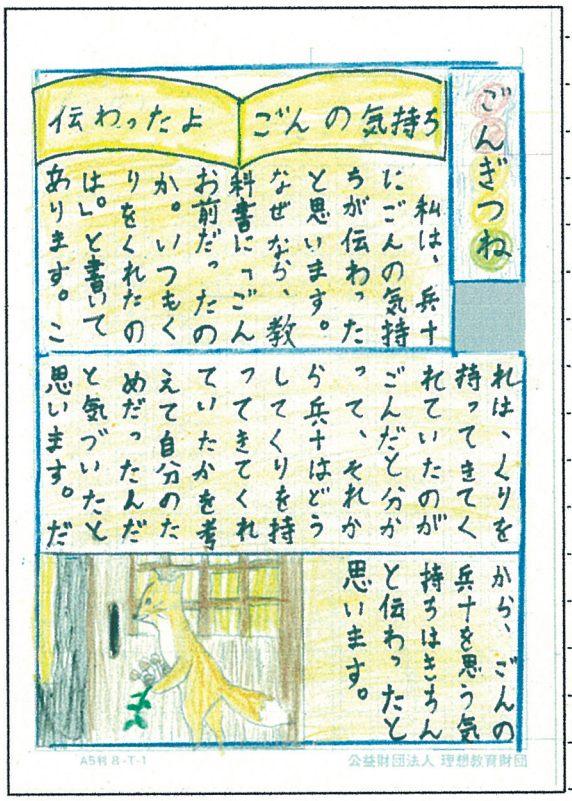
④学習の成果と評価

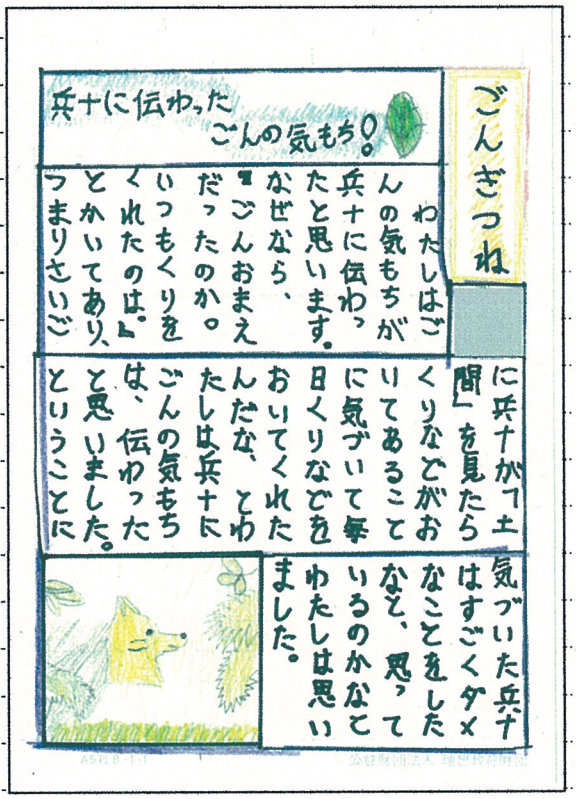
マス目や見出し欄があったので、新聞の形式を意識しながら、上手にレイアウトすることができた。色や飾り枠を工夫して、美しくまとめることができた児童も多かった。

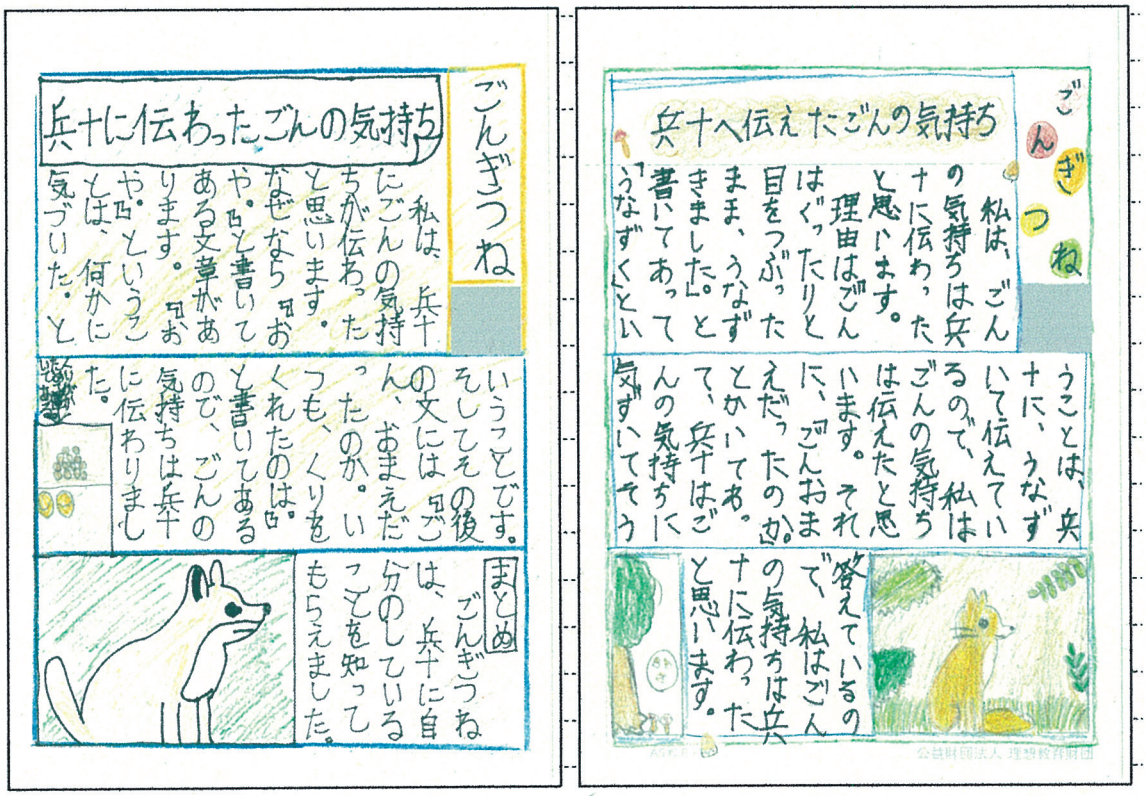




特に見出しの枠は、対比する「兵十の気持ち」と「ごんの気持ち」をそれぞれ囲んで色を変えたり、本の形にしたり、葉やきのこなどのイラストをかいたりするなどの工夫が見られた。ノートに記述した文章を写した児童が多かったので、もっと「伝える」ことを意識した書きぶりをさせるとよかった。







報告日：平成３０年３月２３日

公益財団法人理想教育財団　御中

〔所在地〕〒610－0121 京都府城陽市寺田深谷 111－2

〔学校名〕京都府城陽市立深谷小学校

〔報告者名〕　谷口　卓真　㊞

〔電話〕　0774－53－3200

①　学習のねらい

本校では平成２６年度から３～６年生の間ではがき新聞の取組を広げてきました。その中で「書く力」の全般の向上や、限られたスペースに要点を整理して書き、内容の組み立てを考える構成力を高めることを意識しながら進めています。また、限られた字数であることや、色付けやイラストを入れることで、まとめることに苦手意識を持っている児童への抵抗力をなくすこともねらいとしています。

本校は２７年度から３年間、京都府小学校教育研究会理科教育研究協力校となり、本年度は京都府小学校教育研究会理科教育大会を行いました。理科や理科につながる生活科を中心に教職員全員で研究し、「理科の有用性を実感できる児童の育成～実生活との関連を図る理科授業の創造～」を研究主題とする中で、授業改善や環境整備、学んだことを実生活につなげられないかと試行錯誤を重ねてきました。そのような状況の中で、理科の研究手段のひとつとして、はがき新聞の活用を続けてきました。

②　指導上の注意点

＜３学年～６学年共通で取り組んだ理科に関する内容＞

・理科の学習での単元のまとめ
・問題に対するまとめと振り返りについて
・実験方法や実験の経過の紹介
・実験器具についての紹介
・生活との関連を取り上げた内容の紹介
・動物や植物の体のつくりや、様々な種類の紹介

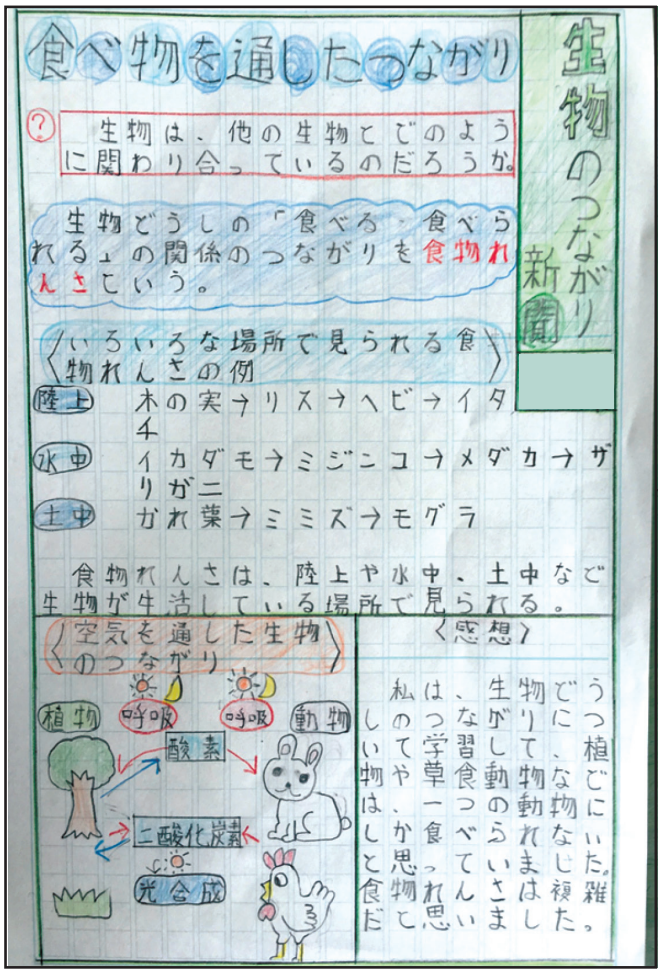
＜各学年で取り組んだ理科以外の内容＞

３年生・・・社会科　　単元のまとめ

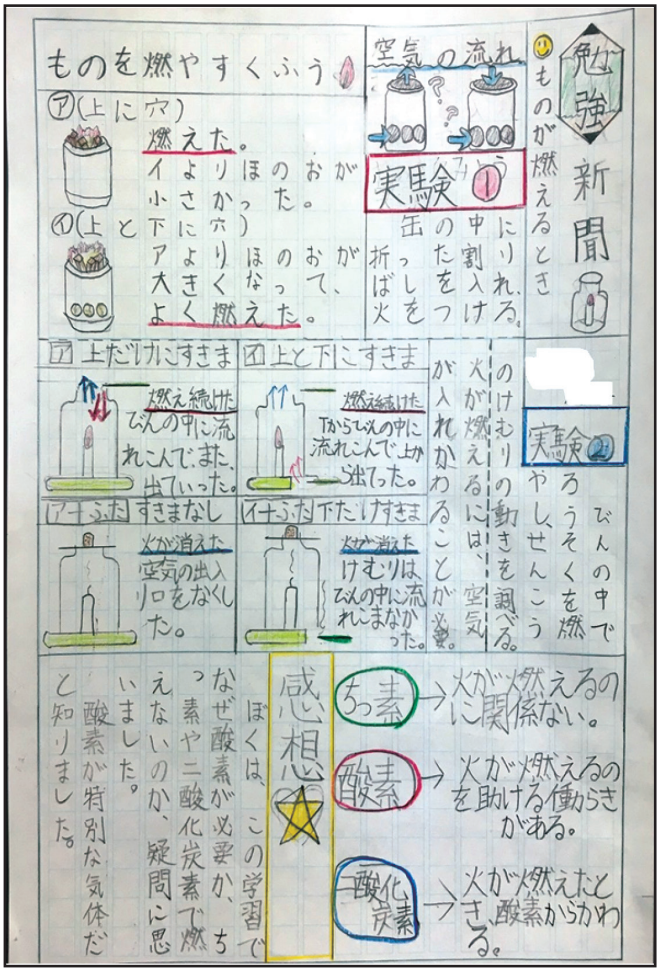
国語科　　モチモチの木ミニ新聞作り
４年生・・・社会科　　単元のまとめ
人物紹介
５年生・・・社会科　　全単元のまとめ
６年生・・・社会科　　歴史人物の紹介

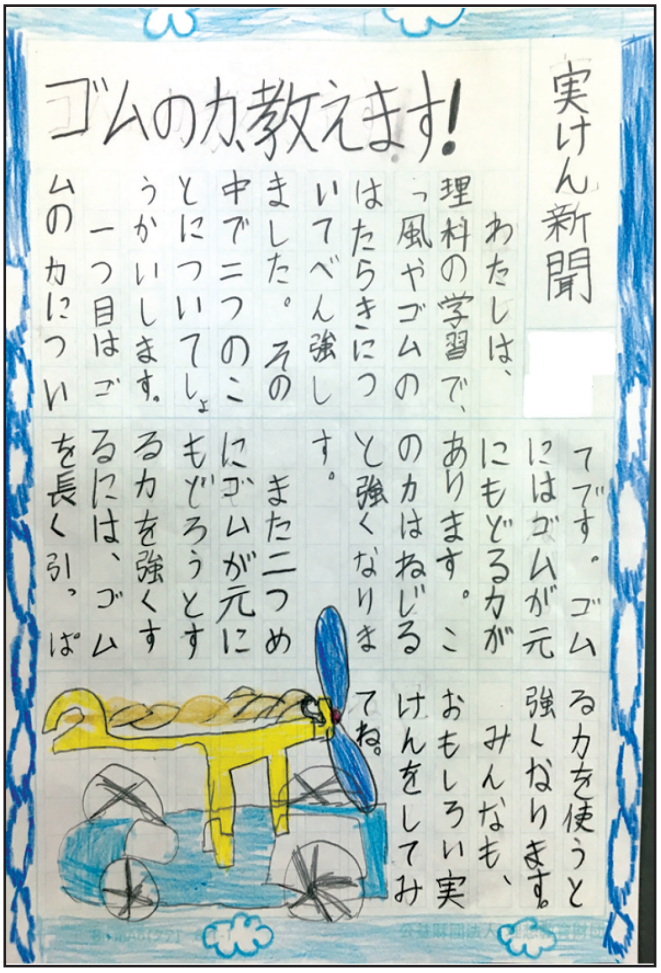
③　児童の感想
・勉強したことをまとめ直すことで、復習することができた。
・友達に見てもらえて嬉しかった。
・友達が作った新聞を読むのが楽しい。
・最初は何を書いたらいいのかわからなかったけど書いていくうちに書き方がわかって楽しくなってきた。もっと書きたいと思う。
・どうやったら見やすい新聞になるのかを自分で考える勉強になった。
・書くことがたくさんある時は、６ミリマスを使って、難しいときは８ミリマスを使うことができて、使い分けができるからいい。
・自分の興味があるものを、短い言葉でまとめたり、わかりやすく書けたりして面白いなと思った。
・友達の新聞を見ることで、書き方の勉強になると思った。

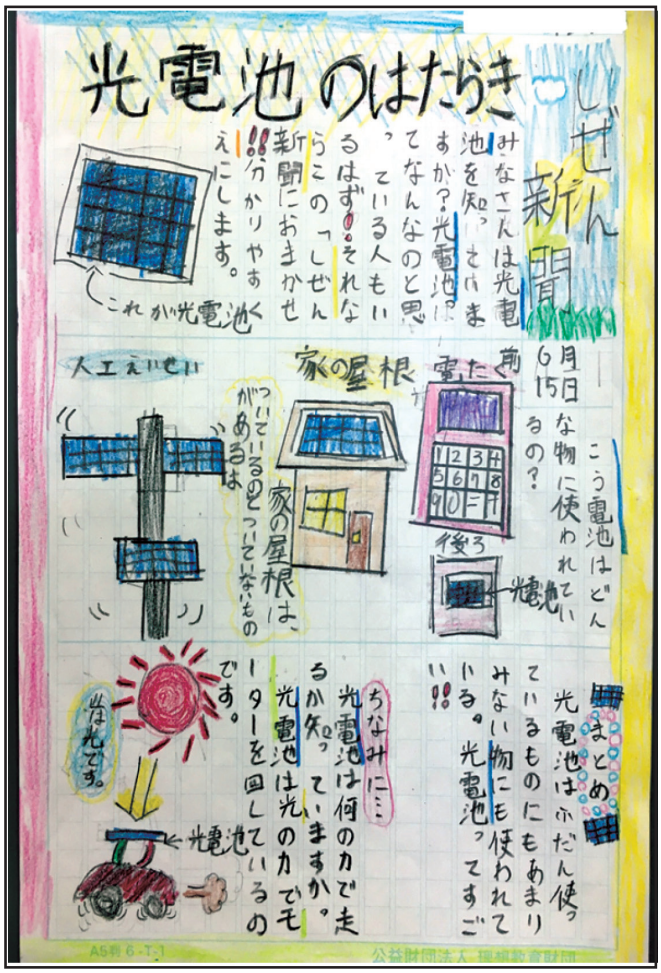
④　学習の成果と評価
単元のまとめとして取り組むことで、学習の定着をはかることができていると思います。簡単に取り組めて手軽にまとめることができるので、児童の意欲にも繋がっていると思います。
回数を重ねる度に、構想や小見出し、図や絵の取り入れ方等が分かっていくので、書く度に完成度が高まっていました。興味・関心が高い児童は自主学習などでどんどん進めることができました。６ミリと８ミリマスを選べたことも児童１人１人の習熟の程度に合わせて取り組める要因になっているようでした。
３年生が初めて取り組む際には、教師が作った見本を示し、取り組みやすくしました。また、上学年のはがき新聞の書き方の工夫も取り上げました。その結果、学校全体にはがき新聞が定着してきていると考えます。
はがき新聞が学校に浸透してきたことで、教職員の間でも前向きなアイデアが生まれ、どんどんプラスになっています。さらに取り組みやすさから、転任してきた教職員にも、はがき新聞がすぐに受け入れられています。
既習事項を自ら図や表に表すことは、理科の学習でもとても有効でした。
このように、はがき新聞の取組は、理科の研究を進めていく上でとても効果的でした。
次年度も継続して取組みたいと思います。

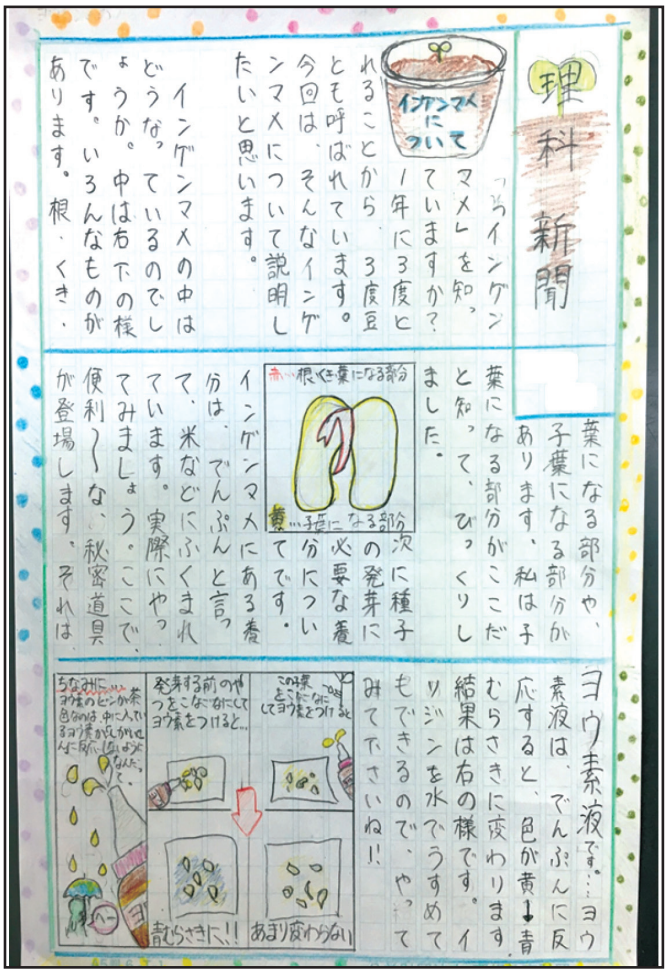

生物のつながり
新聞
食べ物を通したつながり
生物は、他の生物とどのように関わり合っているのだろうか。
生物どうしの「食べる、食べられる」の関係のつながりを食物れんさという。
〈いろいろな場所で見られる食物れんさの例〉
陸上 木の実→リス→ヘビ→イタチ
水中 カダヤシ→ミジンコ→メダカ→ザリガニ
土中 かれ葉→ミミズ→モグラ
食物れんさは、陸上や水中、土中など生物が生活している場所で見られる。
〈空気を通した生物のつながり〉
植物
呼吸
酸素
動物
二酸化炭素
光合成
〈感想〉
うつ植ごにいた。雑。
でに、な物なじ複た。
物りて物動れまはし
生がし動のらいさま
、な習食つべてんい
はっ学草一食っれ思
私のてや、か思物し
しい物はしと食だ

新聞
食べ物を通したつながり
バルネベをかる。そのエッ食べがリそカキが「食べる」のをンのつなべそビワ土の食、へを同係タ食そッ生のいがべのネ物関う。バッが、キ、」バルベのた、ネカが、いイをビべうタへ食こを工食そっれ食べられる食物れんさく例〉
水の中
アオミドロ→ミジンコ→メダカ→タガメ…
土の中
かれ葉→ミミズ→モグラ…
陸上
木の実→リス→ヘビ→イタチ…
空気を通した生物のつながり
植物
動物
二酸化炭素
酸素
木
草
植物プランクトン
魚
ウサギ
鳥
光合成
呼吸
感想
食虫植物は、食物連鎖の中で、どのような立場にあるのか、調べてみて、知りたいです。
公益財団法人 理想教育財団


勉強
新聞
ものを燃やすくふう
ア(上に穴)
燃えた。
イよりほのおが小さかった。
イ(上と下に穴)
アよりほのおが大きくなって、よく燃えた。
空気の流れ
①ものが燃えるとき
実験①
缶にりれる。中割入れのたをっ折ばし火
上だけにすきま
燃え続けた
でんの中に流れこんでまた出ていった。
上と下にすきま
燃え続けた
下からでんの中に流れこんで上から出てった。
アもふたすきまなし
火が消えた
空気の出入りをなくした。
イもふた下だけすきま
火が消えた
けむりはでんの中に流れこまなかった。
実験②
のけむりの動きを調べる。
火が燃えるには、空気が入れかわることが必要。
でんの中でろうそくを燃やしせんこう
感想
ぼくは、この学習でなぜ酸素が必要か、ちっ素や二酸化炭素で燃えないのか、疑問に思いました。酸素が特別な気体だと知りました。
ちっ素→火が燃えるのに関係ない。
酸素→火が燃えるのを助ける働らきがある。
二酸化炭素→火が燃えたとき、酸素からかわる。


実けん新聞
ゴムの力教えます!
わたしは、理科の学習で、風やゴムのはたらきについてべん強しました。その中で二つのことについてしょうかいします。一つ目はゴムの力についてです。ゴムにはゴムが元にもどる力があります。このカはねじると強くなります。また二つめにゴムが元にもどろうとする力を強くするには、ゴムを長く引っぱる力を使うと強くなります。
みんなも、おもしろい実けんをしてみてね。


光電池のはたらき
しぜん新聞
みなさんは光電池を知っていますか？光電池はてなんなのと思っている人もいるはず!!それならこの「しぜん新聞」におまかせ!!分かりやすえにします。
これが光電池
6月15日
前
電たく
家の屋根
人工えいせい
こう電池はどんな物に使われているの？
ついているのとついていないものがあるよ
家の屋根は、
後ろ
光電池
まとめ
光電池はふだん使っているものにもあまりみない物にも使われている。光電池ってすごい!!
ちなみに…
光電池は何の力で走るか知っていますか。光電池は光の力でモーターを回しているのです。
光電池
光は光です。
A5判 6-T-1
公益財団法人 理想教育財団


理科新聞
インゲンマメについて
「インゲンマメ」を知っていますか？1年に3度とれることから、3度豆とも呼ばれています。今回は、そんなインゲンマメについて説明したいと思います。
インゲンマメの中はどうなっているのでしょうか。中は右下の様です。いろんなものがあります。根、くき、葉になる部分や、子葉になる部分があります、私は子葉になる部分がここだと知って、びっくりしました。
赤…根くき葉になる部分
黄…子葉になる部分
次に種子の発芽に必要な養分についてです。
インゲンマメにある養分は、でんぷんと言って、米などにふくまれています。実際にやってみましょう。ここで、便利〜な、秘密道具が登場します。それは、
ヨウ素液です…ヨウ素液は、でんぷんに反応すると、色が黄→青むらさきに変わります。結果は右の様です。イリジンを水でうすめてもできるので、やってみて下さいね!!
ちなみに…ヨウ素のピンが茶色なのは、中に入っているヨウ素が乱かいせんに反応しないようになんだって。
発芽する前のやつをこなごなにしてヨウ素をつけると…
この子葉をこなごなにしてヨウ素をつけると
青むらさきに!!
あまり変わらない

よく考え，伝え合い，豊かな学びを実現する子
～はがき新聞の有効活用を目指して～

千葉県市川市立大和田小学校
教諭　流　雄希

単元名　特別の教科道徳

内容　　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
（１）生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
（２）自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。

１．はがき新聞をどのようなねらいで、どのようなタイミングで作成させたか

近年テレビのニュースや新聞では、大雨等での土砂災害で被害に遇われた方が増えている気がする。その中で子ども達に土砂災害のニュースを聞いたり、見たりして、どのように感じているか、自分の考えや感想をまとめようと考えた。ただ自分の考えを書くのではなく、災害から身を守るための準備や、被災者の方に今自分ができることを標語にしようと考えた。そこで、いつも活用している理想教育財団さんのはがき新聞が最も適していると思い活用した。ねらいは、４つあります。１つ目は、まとめる力や表現力、思考力など様々な力を身に付けることが期待できる点である。２つ目は、普段から使い慣れていて自分の考えをまとめるのにちょうどよいサイズということである。３つ目は、はがきサイズということでコンパクトで掲示しやすいところである。４つ目は、色塗りや絵を描いたりできるので飽きずに楽しみながら学習を行えるところである。その成果として、どのように書けばよいかという思考力や相手にどのように伝えたらよいのかという表現力、そして、より詳しく自然災害について知りたいと知的好奇心を刺激するため、社会に対する興味関心をもつことができた。もちろん、導入の段階ではがき新聞を活用することもあるが、私はまとめで活用することが最も多い。今回の「土砂災害新聞」も学習の最後に標語でまとめた。

２．子ども達の反応はどうだったか

期待以上の反応が毎回返ってくる。私は、まとめる力や表現力、思考力など様々な力を身に付けることできると確信している。特に、ミテミテで掲示することで多くの方々に見てもらうという意識をもち丁寧に文字を書いたり、絵を描いたりしている。また、子ども達も書く度に、上手に、きれいに、書くことができるようになるので、達成感や成就感を味わいながら取り組むことが出来る。

今後も理想教育財団さんのはがき新聞を活用させてもらい子どもの力を最大限に伸ばしていきたいと考えている。担任と子どもとの信頼関係を築くのにも効果がある。それには、率先垂範を常に行い、教師見本をみてもらうことで子どもも見通しをもちながら学習を進められるようにすることである。また、教師が工夫し続けることで子どもも楽しみながら続けられるので、これからも色々なはがき新聞の活用方法を考えていきたい。

～自分のことばで伝えよう～

「はがき新聞を使った実践」

千葉県八千代市立八千代台小学校
学校司書　　村上佳子

1、学年の取り組み

小学2学年「おてがみ・スイミー」　2クラス
小学3学年「俳句の説明文」　2クラス
小学4学年「ごんぎつね」　2クラス
小学5学年「大造じいさんとガン」　2クラス

ハガキ新聞を使った目標

・新聞を身近に感じさせる。
・教科単元を別な面から考えさせ、自分ならではの表現方法で伝える。

実態（新聞との関わり）

当校では、平日読売新聞が 4～6 学年のクラスに、また、千葉経済新聞が図書室に配られている。けれども、子どもたちはあまり目を通していないのが現状である。家庭の新聞購読が少なくなってきていることが影響しているのではないだろうか。

高学年の調べ学習では、話題になっていることを取り上げる子どもが多く、本を探しに来るが、現在起きていることに関する書籍はほとんどなく、本を探せないまま諦めてしまい、新聞で調べるという発想にはならない。

しおりや本の紹介文を書かせると、あらすじを並べてしまう子どもが多い。

取り組み計画（1～3 時間扱い）

図書の割り当て時間。
高学年は、新聞の仕組みを 1 学期に学習している。

取り組んでみての感想

週 2 日、1 日 4 時間の勤務ということもあり、1 クラス 2 時間続けての取り組みは厳しいと言われていて、1 時間の取り組みで計画する。終わらない子どもたちは、別な時間を使って仕上げてもらうことを考えていたが、殆どのクラスが先生方のご協力で、2 時間の取り組みとなった。T・T での取り組みにより短い時間でも 1 人 1 人の子どもたちに対応出来たことではないかと感じる。

どのように表現したら良いか迷う子どもが多かったが、クラスの班ごとに「読書のすすめ　読書推進のための『はがき新聞』活用例小学校編」を 1 冊づつ配ったところ、迷いも消え書きあげることが出来た。はがきサイズの大きさ、段落があったこともイメージしやすかったようだ。

表現方法が似通ってしまうことを避けたいと思い、全体の細かい説明より個々への助言を心がけた。

５年生は「大造じいさんとガン」の単元を終えてから時間がたってしまったことで、思い出すのに時間がかかっているようであったが、逆に、昨年学んだ単元に「何故？」とじっくり問いかけている様子が伺えるなど、思い返して考えることで違った考えが出ていた。改めて取り組み時期を考えさせられた。

2 学年は、6 年生を送る会の劇が「スイミー」だったこともあり、劇に関連して表現する子どもがみられる。「誰に向かって書くのですか」と自ら解決しようとする姿もみられ、多くの子どもたちが投げ出さず集中して行い、意欲的に 2、3 枚目に取り組む子どもも数人いた。なによりも子どもたちの意欲が普段と違っていた。

2、図書委員会の取り組み

「おすすめの本をはがき新聞で伝えよう」

ハガキ新聞を使った目標

・公立図書館におすすめの本を掲示してもらうことにより、紹介する本を考えさせる。

・公立図書館に繋げる。

実態（本・公立図書館との関わり）

・国語の研究校ということもあり、読書好きで、聴く耳を持っている子どもたちだが、多くの子どもたちは軽い読み物で満足している。

・近くに公立図書館があるが、利用はまだまだ少ない。

取り組み計画

・八千代台ブックストリート“本の祭り”期間、八千代台図書館におすすめの本を紹介するはがき新聞を作成し、おすすめの本と一緒に掲示する。

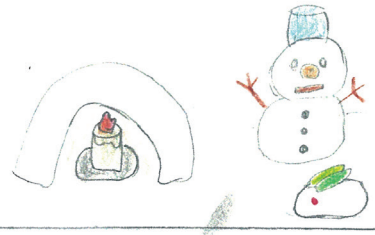
取組んでみての感想

多くの人たちに見ていただくということが意欲を掻き立てていたと感じる。
はがき新聞で人に伝えるということの取り組み、多方面からの表現を感じさせ、リテラチャーサークルに繋げて読書力を高めていきたい。

冬のはいく

雪ふれば
あたりまっ白
雪の海

おじいちゃんとおばあちゃんが住んでいるところは雪がたくさんふるから、このはいくはわたしが冬におばあちゃん家に行った時、あたり一面まっ白で、まるで海のように見えたからです。



冬の花

山茶花が
きれいにさくよ
冬なのに

ぼくが生まれる前に死んでしまったおじいちゃんの家に山茶花があっておじいちゃんが生きている時ずっと手いれしていたそうだから山茶花の俳句にしました。なのでおじいちゃんにとどいてくれればと思います。そしておはかまいりの時にこじいちゃん俳句が本にのったよ」ということができたらいいです。

冬の俳句

雪ふれば
赤き手ぶくろ
むし
冷たかな

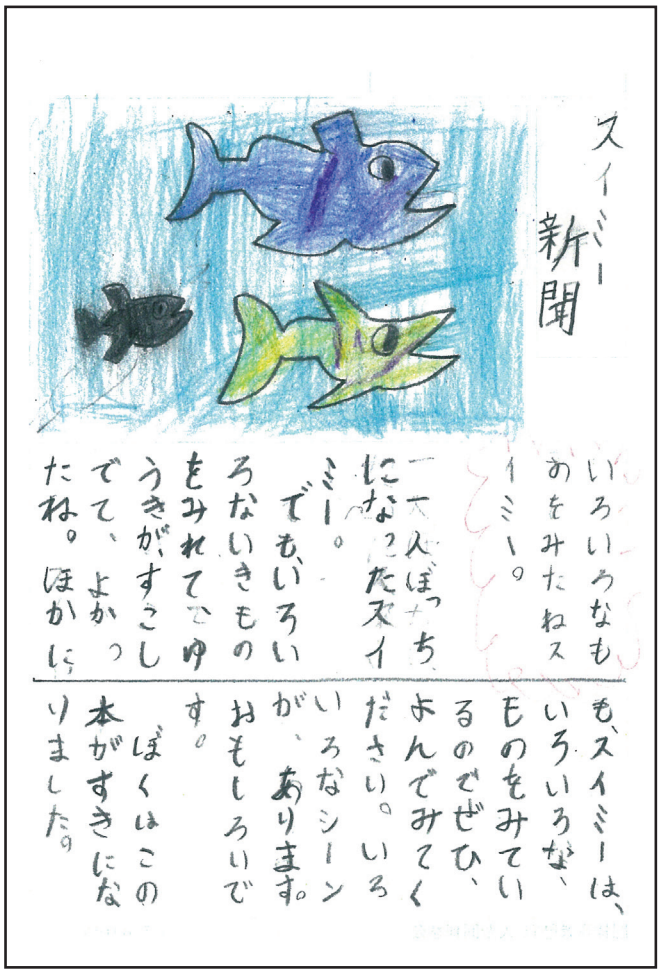
この俳句は、雪をさわって手が赤くなって、冷たかったからそれを俳句にしました。学校にも、雪がふりましたね。雪は楽しいけれど、とても冷たいです。

でも、またふろといいですね。大人はいつも雪がふると雪かきをしますね。大人もこんな句のようなことを思ったかもしれません。

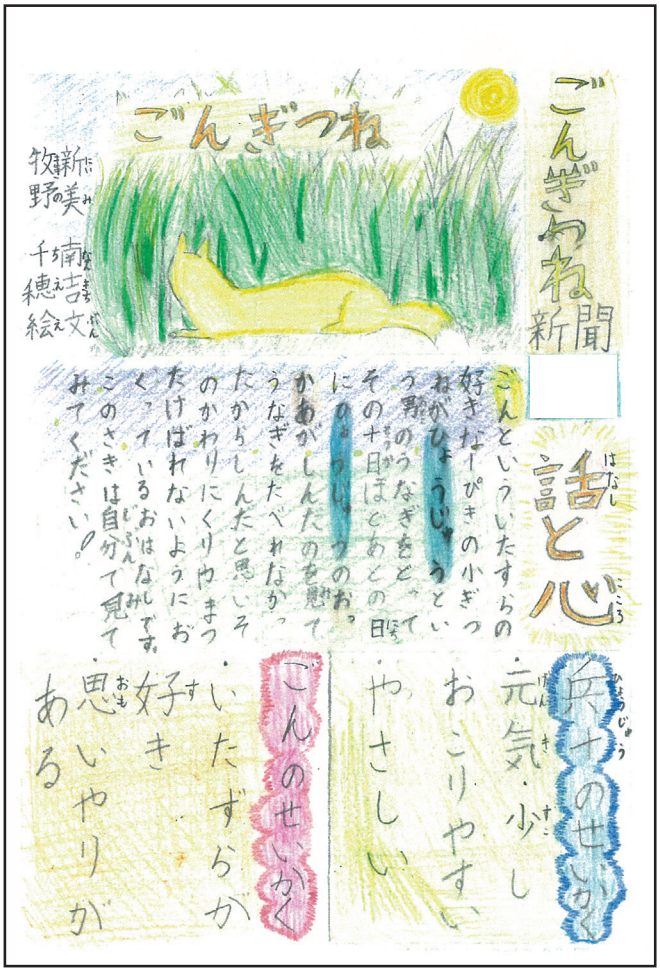
俳句新聞

あたたかい
春の知らせを
待っている

この俳句は花や虫や動物たちがあたたかくなった春の知らせを待っているのかなと思ったことからかいた俳句です。この俳句をかいた理由はおじいちゃんの家の庭に植物があって虫もいて虫は夏はいたのに冬はいなくてあたたかい春の知らせを待っていると思ったからです。植物はチューリップでチューリップは春に目をさますからです。


スイミー新聞
いろいろなものをみたねスイミー。
一人ぼっちになったスイミー。
でもいろいろないきものをみれてゆうきがすこしでて、よかったね。ほかにも、スイミーは、いろいろなものをみているのでぜひ、よんでみてください。いろいろなシーンが、あります。おもしろいです。
ぼくはこの本がすきになりました。

お友だち新聞
おてがみ アーノルド・ローベル作 三木卓
かえるくんはやさしいかわいそうながまくん。おてがみをまつじかんなのにおてがみがこない。そこでかえるくんはおてがみをかくことにした。ほんとにやさしいと思った。
かえるくんおてがみのなかおしえちゃうの
わたしは、おてがみの中をおしえちゃうのがおもしろいです。わたしならないしょと言います。
かえるくんは、何て書いたでしょう。


ごんぎつね新聞
ごんぎつね
新野美
千南吉
穂絵文
話と心
ごんといういたずらの好きなーぴきの小ぎつねがひょうじゅうという男のうなぎをとってその十日ほどあとの日にひょうじゅうのおかあがしんだのを見てうなぎをたべれなかったからしんだと思いそのかわりにくりやまつたけばれないようにおくっているおはなしです。このさきは自分で見てみてください。
兵十のせいかく
元気・少しおこりやすい・やさしい
ごんのせいかく
いたずらが好き・思いやりがある

ごんと兵十の新聞
兵十、喜んでくれるかな？
兵十
兵十は、おっかあが死んでしまったので、一人ぐらしのせびしい生活をしています。いままで兵十にいたずらをしていたごんは、兵十のおっかあがうなぎを食べたいと死んでしまったことを知ります。そこでおわびにくりやまつたけを持って兵十の家においていきますが、兵十にじゅうでころされてしまいます。
ごんの気持ち
うなぎが食べたらそ死んでしまったおっかあのことを知ったので、少しでも兵十を元気づけてあげたいという気持ちだと思います。
兵十の気持ち
ごんにうなぎをとられておっかあが死んでしまったので、ごんに対しておこっているが、くりをもらって少しうれしいかもしれない。
感想
ぼくはこのごんぎつねを読んで、兵十のおっかあが死んでしまった悲しさと、ごんの心配する気持ちの二つを強く感じました。

報告日：平成３０年３月９日

公益財団法人理想教育財団　御中

〔所在地〕〒　９０３－０１２８

〔学校名〕沖縄県立森川特別支援学校

〔報告者名〕　比　嘉　美　保　㊞

〔電話〕　０９８－９４５－３００８

平成２９年度　はがき新聞実践報告

1　実践事例

(1)　感情の表出や表現を苦手とする生徒に対する実践（図１）

①　生徒Ａ：高等部１年男子（Ｉ課程）

②　テーマ：文化祭

③　学習目標：行事の取組を振り返りながら、その時々の感情と感情の移り変わりを整理し、文章にする。

④　実態

ア　集団参加が苦手。

イ　個人情報の公開や写真や動画の被写体になることを拒む。

ウ　会話の意図を全体で受けとることができず、局所的な言葉に過敏な反応をみせることがある。

エ　意志決定に時間がかかったり、内面を表出したりすることを嫌がる。

⑤　留意したこと

ア　文化祭の練習が始まる頃から活動内容を提示し、本人に学習の見通しが立つようにした。

イ　「はがき新聞」に取組むかどうかは、最終的に本人の意志に任せた。文化祭の取組を項目ごとに文章表記することを当面の目的とし、心的負担の軽減を心がけた。

ウ　「はがき新聞」に取りかかる際、過年度の作品を数枚提示し、作成する「はがき新聞」のイメージを明確にした。

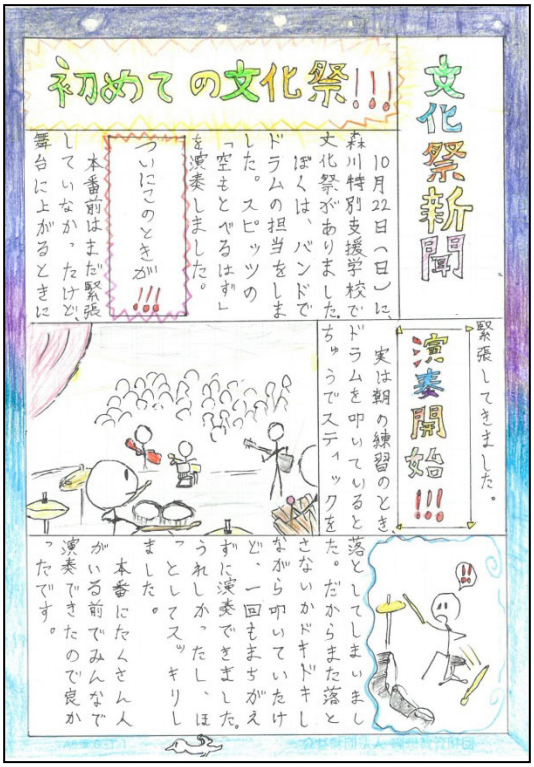


図１　生徒Ａの作品

⑥　成果

ア　文化祭の練習が進むにしたがって、この用紙に書き込む内容が増えた。書く材料が豊富になったことで「はがき新聞」を書く自信がつき、意欲的になった。

イ　「はがき新聞」の特徴をよく理解し、出来事の流れに沿った小見出しを立て、効果的に心情の変化を書き表すことができた。

ウ　自作品の完成イメージが固まるにつれ、感想やその変化を記事にすることができるようになった。また、納得のいく作品に仕上げられたことで、作品や氏名の公開（新聞紙面）を承諾してくれるなど、自信をつけた様子が見られた。

エ　完成した「はがき新聞」を、両親、両家の祖母、担当の相談員、兄弟の支援員に出すと決め、郵便や手渡しで届けることができた。

図２　生徒Ｂを指導する様子

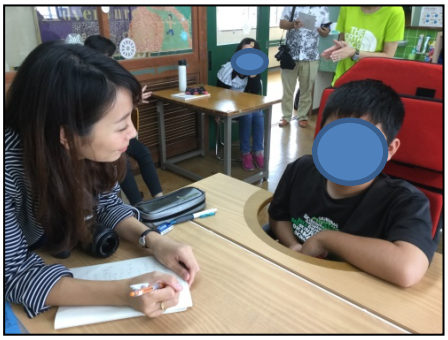


図３　新聞取材を受ける生徒Ｂ

(2) 軽度知的障害のある生徒の実践と変容（図２～図５）

①　生徒：中学部２年男子（Ⅱ課程）

②　テーマ：修学旅行

③　学習目標：感想や考えたことを表現する。

④　実態：

ア　書くことに対する苦手意識が強い。

イ　日常的な会話も単語でのやりとりが目立つ。

⑤　留意したこと

ア　授業者が事前に担任から本人の行事に関する情報の聞き取りをし、修学旅行中のイメージをもって授業に臨んだ。

イ　修学旅行を時系列に振り返った。

ウ　印象に残っている事柄について、本人から出た言葉を書き留め、感想や考えたことを引き出していった。

⑥　成果

ア　昨年度に比べて、リード文（事実の記述）を５Ｗ１Ｈ に沿って要領よくまとめることができるようになった。

イ　感想や考えたことの内容がどのようなものか、またそれらをどのように書くのかということを理解することができた。それにより、文章量が格段に増え、読み応えのある文章になった。

ウ　先輩の見本作品の良い点を自分の作品作りに生かすことができた（色塗りや配色）。

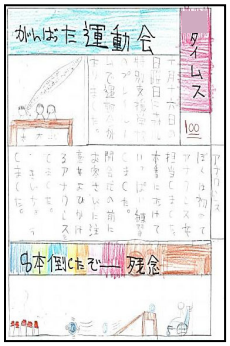


図４　昨年度の生徒Ｂ

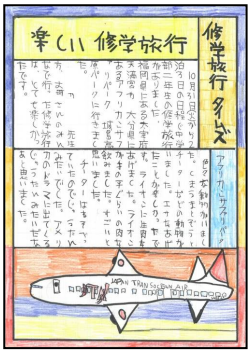


図５　今年度の生徒Ｂの作品

図６　アプリで文字

図７　入力した

(3) 中度知的障害及びひらがなの読み書きが難しい生徒の取組（図６～図８）

① 生徒Ｃ：中学部１年男子（Ⅱ課程）

② テーマ：「2017 年３大ニュース」

③ 学習目標：文字を使って書くこと、伝えることを楽しむ。

④ 実態

ア ひらがなの読み書きがほとんどできない。

イ なぞり書きができる（直線、曲線、重なった線等）。

ウ 言葉でのやりとりが可能。おしゃべりや人との関わりが好き。

⑤ 成果

ア なぞりアプリを活用することで、伝えたいことを自筆で書くことができた。

イ 書くことに慣れたことで、書字に対する意欲が高まった。

ウ 掲示している他生徒の作品を見て「はがき新聞」の作成に意欲をみせ作成を開始した。自作の作品を掲示する、または郵便で送る等で周囲から高評価を受け、自信をつけた。また、他者へ思いを伝えたいという意欲が強まった。

図８　生徒Ｃの

(4) 継続的に活動を行った児童の成長（図９）

① 児童Ｄ：小学部６年男児（Ⅰ課程）

② テーマ：日常の出来事や行事の感想

③ 学習目標：

ア 文章で感情を表現することができる。

イ 意欲的に取り組んだ書く活動を、話す意欲や話す力につなげていく。

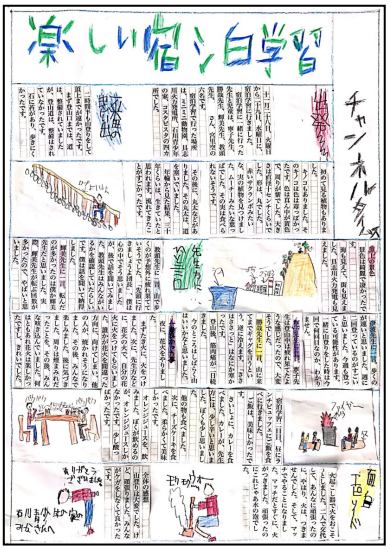


図９　児童Ｄの壁新聞

④ 実態：

ア 昨年度１年間はがき新聞に継続的に取組んだ（約１５枚作成）ことにより、本人が入学当初抱いていた書くことへの抵抗感が和らいでいる。

イ 書く内容が自分のことに終始しがちである。

ウ 書く内容が単一的で、活動の全体像を文章で表現することに課題がある。

エ　感情が豊かであるが、その内容を文章や言葉で表現する方法が分からない。

⑤　成果

ア　短い時間で多くの分量の文章を書くことができるようになった。

イ　出来事の記述に客観性が出てきた。

ウ　関わる人（教師や中心人物以外の人）の動きや様子に目が向くようになった。

エ　他者取材や社会科見学の際、書くことを見通して意識的にメモを取るようになった。また、聴き取った内容を文章にする力がついた。

オ　時系列を考えながら出来事を振り返ったり、一つひとつの出来事を端的に書いたりすることができるようになった。

カ　壁新聞を書くだけの材料集めと文章力、構成力、イラストの画力がついた。

キ　文章で表現豊かに思いを伝えることができるようになった。また、ユーモアを織り交ぜ文を書くなど、読み手を喜ばせようとする意識で記事を書こうとする態度が見られた（他者意識）。

2　成果

(1) 読書感想文等の作品を校内に掲示することさえも拒否していた生徒が、「はがき新聞」の新聞取材では紙面への氏名や作品の公開を快諾してくれた。背景に、生徒自身が満足のいく作品に仕上げることができたという達成感を得たからだと思う。記者の取材に答える姿や、掲載された紙面を喜ぶ様子からも自信をもって取り組んだことが伝わった。

(2) 一人ひとりの児童生徒が行事で学んだことや成長したことを、「はがき新聞」の制作過程で意識することができた（意味づけ、価値づけ）。

(3) 取組が２年目に入った児童生徒は、事実の記述（５Ｗ１Ｈ）がスムーズだった。

(4) 昨年度または先輩の作品から良い点を取り入れ、自分の作品に生かそうとする姿が見られた。

(5) 限られた文字数の中でいかに自分の感動や感想を盛り込むかという視点に立ち、言葉選びに多くの時間をかける生徒が複数みられた。

(6) 全ての児童生徒が自分の作品を多くの人に見てもらいたいという気持ちを抱いた。

(7) 他者の作品の良いところを見つける視点が見られた。

(8) 書字に課題のある生徒が他児童生徒の作品に感化されたことで、意欲的に書字学習に取り組むようになった。

(9) 学年や学部、病気や障害の程度を越えて、昨年度よりも幅広い実態の児童生徒が取組んだ。

3　課題

(1) 児童生徒の作品に対する反応を引き出す教師の働きかけが弱かった。継続するためには、授業計画の段階から具体的方法を検討する必要があった。

(2) あらかじめ実態に合った達成度の設定と評価の観点を明確にする必要があった。

報告日：平成３０年１月　日

公益財団法人理想教育財団　御中

〔所在地〕〒020-0055
岩手県盛岡市繋字舘市１１４－１
〔学校名〕　盛岡市立繋中学校
〔報告者名〕　川崎　美希子　㊞
〔電話〕　019-689-2227

○学年　全学年

○教科・領域　社会科・総合

○学習のねらい

相手意識をもって、様々な場面ではがき新聞を作成することで、思考力・判断力・表現力を高める。

○指導上の留意点

学年の実態と発達段階に応じた学習テーマで、系統性をもたせる。
作成して終わるのではなく、はがきと新聞の２つの機能を生かし、「伝える」場面を設定すること。

○ １学年

（１）社会科はがき新聞
①小学校社会科を振り返り、中学校社会科への決意を示す。
②世界の気候帯ごとの学習をまとめる。

（２）先人はがき新聞
①小学校の先人学習から、さらに深く学習したい先人を選び、その生き方・考え方を紹介する。そこから自分が何を学んだかをまとめる。

（３）職場訪問はがき新聞
①職場訪問で見聞したことや体験したことをレポートする。

（４）さんさはがき新聞
①郷土芸能のさんさ太鼓の活動の振り返りと指導者の方への感謝の思いを表す。

（５）道徳はがき新聞
①資料について自分の考えを表す。

○2 学年

（１）社会科はがき新聞
①日本の領土問題に関する学習のまとめと意見を示す。
②織田・豊臣・徳川の三者について、誰が天下人としてふさわしいと自分は考えるかを、学習のまとめとともに意見する。

（２）先人はがき新聞
①校歌を作詞している小田島弧舟について調べ、自分の学校の校歌の詞を味わい、自分が感じたことをまとめる。
（３）職場体験はがき新聞
①2 日間の職場体験でのレポートと感謝を表す。
（４）さんさ新聞
①郷土芸能のさんさ太鼓の活動の振り返りと指導者の方への感謝の思いを表す。
（５）道徳はがき新聞
①資料について自分の考える立場を示す。
○3 学年
（１）修学旅行はがき新聞
①修学旅行の思い出と、親に対する感謝の気持ちを表す。
②修学旅行で訪問しお世話になった方々に感謝とお礼の気持ちを伝える。
（２）先人はがき新聞
①盛岡の先人の中から、これからの自分の生き方を考える上で参考となる人物を選び、それをもとに未来の自分へのメッセージをまとめる。
（３）社会科はがき新聞
①平和新聞
・核や沖縄、憲法 9 条等の平和に関するテーマをそれぞれが選び平和を訴える新聞。全員のはがき新聞を合わせるとハトの絵ができあがるようになっている。
（４）さんさはがき新聞
①郷土芸能のさんさ太鼓の活動の振り返りと指導者の方への感謝の思いを伝える。
（５）道徳はがき新聞
①長詩の中の励ましや、戒めから、現在の自分の心に響くものを選び、自分を見つめ、その過程をはがき新聞に表現する。
○学習の成果と課題　（◎成果　△課題）
◎作成して終わるのではなく、生徒間交流、校内外の文化祭、実際に相手におくる等の場を設定し、学習に意義をもたせることで生徒の実感的な学びにつながったと思う。
◎自己の学びを発信することで、学習の内面的理解につなげられた。
◎作成を重ねるごとに、慣れてきた生徒から表現をより工夫するようになった。
△新聞の機能としての部分で、見出しの工夫に欠けた。とりかかりやすいものだが、丁寧な指導は必要だと思った。その指導の基本は「相手意識」だと考える。

2017年6月14日　先人新聞「心」　No.3

地域を思って

心

鈴木彦次郎は、学生時代から文学活動を始め作家として活動をしました。ほとんどが盛岡を題材としたものでした。また、作家として活動しながら、県立図書館館長や岩手県教育長などを務めて郷土の文化向上に尽くしました。私は、鈴木彦次郎という人は「地域思い」な人だなという印象を受けました。自分の作家という仕事をしっかりしながら、さらに地域のことを考えながらたくさんの事をこなしているので熱心な人だとも思いました。私も将来地域のために働きたいと思いました。

みらいへ

私の今の将来の夢は司書です。この仕事はとても地域に役立っている仕事だと思います。この鈴木彦次郎も地域のことを思いながら活動をしたので私も将来、地域のことをよく考えて行動する人になりたいと思いました。

鈴木彦次郎の代表作（作家）
- 土俵
- 闘魂 二所ノ関物語
- 自由の征失
- 牧人

など…

平成29年6月21日先人新聞「歌壇の父」No.2

歌の壇の父

小田島弧舟の生涯

岩手歌壇の父といわれ、繋中学校他多くの学校の校歌の作詞をした小田島弧舟は、明治一七（一八八四）年三月一日に、和賀郡小田山村に生まれました。本名は佐々木理平治といい、岩手師範卒業後、浄法寺小学校や県立盛岡高等女学校、岩手女子高等学校などに勤務しました。明治四一年岩手新詩社をおこし、翌年「曠野」を創刊。石川啄木とも交流がありました。三八〇〇首の短歌や歌集一五編などを残し昭和三〇（一九五五）年死去しました。

校歌

春は藤咲く　藤倉や
秋はもみじの　湯の館の

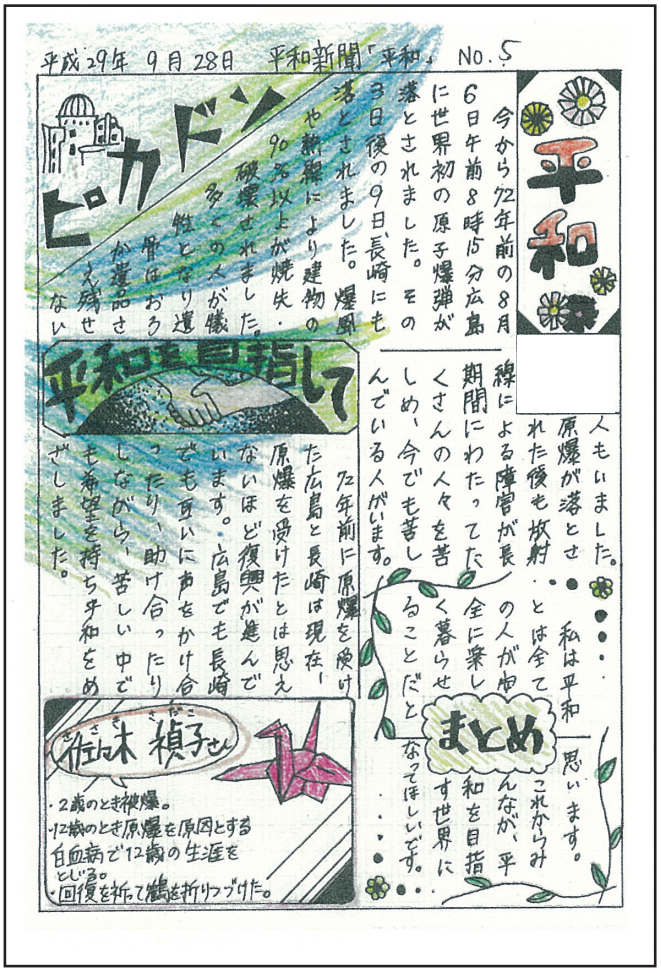
この歌詞を歌っていると繋の美しい自然が思い浮かんできていいなと思います。

好きな短歌

小田島弧舟さんは三八〇〇首の短歌を残しました。

われひとり
よのつねびとの
みちこえて
しづかにゆかむ
さびしかれども

人は孤独である過酷な現実と向き合い、多くの人と接し愛した弧舟さんの生き様を表すこの短歌が私は好きです。


平成29年9月28日　平和新聞「平和」　No.5

ピカドン

平和

今から72年前の8月6日午前8時15分広島に世界初の原子爆弾が落とされました。その3日後の9日、長崎にも落とされました。爆風や熱線により建物の90%以上が焼失・破壊されました。多くの人が犠牲となり遺骨はおろか遺品さえ残せない人もいました。原爆が落とされた後も放射線による障害が長期間にわたってたくさんの人々を苦しめ、今でも苦しんでいる人がいます。

平和を目指して

72年前に原爆を受けた広島と長崎は現在、原爆を受けたとは思えないほど復興が進んでいます。広島でも長崎でも互いに声をかけ合ったり、助け合ったりしながら、苦しい中でも希望を持ち平和をめざしました。

まとめ

私は平和とは全ての人が安全に楽しく暮らせることだと思います。これからみんなが、平和を目指す世界になってほしいです。

佐々木禎子さん

- 2歳のとき被爆。
- 12歳のとき原爆を原因とする白血病で12歳の生涯をとじる。
- 回復を祈って鶴を折りつづけた。

平成29年6月9日社会科新聞「高知識」No.2

高知識

アンデス山脈情報

位置

南アメリカの西側にあり世界最長の山脈です。ペルーのクスコは富士山の山頂ぐらいの高さに位置しています。

気候

一年を通して気温の変化があまりありません。標高が上がるにつれて気温が下がります。空気がうすい。

標高によってちがう食物

主食はじゃがいもやとうもろこしです。数多くの種類があり、じゃがいもはアンデス山脈発しょうとされて百種類もあり驚きました。

なぜカラフル衣装？

スペインがペルーを植民地にした時代のなごりを残す伝統的な衣装で当時のスペイン性の格好をまねたことがきっかけです。

感想

山脈に住む人たちの衣食住などをくわしく知れました。高山病にならなくてすごいと思いました。

住

日干しれんがや石で造られています。壁は茶色が多いです。入り口はせまく窓もありません。

平成29年5月26日修学旅行新聞「思い出」No.1

思い出

歌舞伎座

迫力がすごい

一日目でおもしろかったのは歌舞伎です。その中でも「奴道成寺」がおもしろかったです。なぜなら市川猿之助がバク転をする所が迫力があったからです。かっこ良かったです。

ディズニーランド

スリルマンテン

二日目で楽しかったのはディズニランドです。ビッグサンダーとスプラッシュにのり思っていたより激しく心臓が止まったかと思いました。水しぶきを浴びみんなで声をあげて楽しみました。

楽しい

提灯作り

江戸手描き提灯「帽田」で作りました。ぼくは「山本」と書きました。できあがりは思ったよりきれいにできたので家にかざろうと思いました。

親への感謝

ぼくたちは協力する力を修学旅行で学びました。この修学旅行はお母さんお父さんのおかげだと思っています。ありがとうございました。

修学旅行報告新聞「学び」 H29 5月17日 No.2

学び

国会見学をして…

私たちは東京へ2泊3日の修学旅行に行きました。2日目の朝、国会を見学しました。国会では国会のしくみや、建物のつくりなどくわしく教えていただいたり、実際に衆議院議場を見学したりしました。特に印象に残っているのは銅像が1つないという事です。たくさん説はあるらしいのですが「ミニに自分が立つ」という目標を立てがんばってほしいからという説が印象に残っています。

憲政を学んで

国会の次には憲政記念館を見学しました。憲政の歴史などたくさんのことを学びました。特に私が驚いたことは速記です。議事の内容を速記符号化し記録していくのはすごいと思ったし、養成所に入って何年もかけて速記官になるのは、大変な努力が必要だと思いました。

階せんへ

国会見学の最後に階猛さんがいらっしゃって写真撮影などをしていただきました。お忙しい中来ていただきありがとうございました。特に、「目標を持つ」という話が印象に残りました。本当にありがとうございました。

2017年8月5日さんさ新聞「幸呼来」No.4

幸呼来

なつはさんさ

御所湖祭り盛岡さんさがありました。脚を深く曲げること、手を高くあげることなどに気をつけて、踊りました。かけ声も大きくできたのでよかったです。来年も頑張りたいです。

響く鼓動 継ぐ伝統

感謝

私は、世界で一つの繋伝統さんさをいとおしいことをうれしいとても思っています。暑い時でも指導してくださり本当にありがとうございます。

平成29年8月7日 さんさ新聞「さっこら」 No.5

さっこら

九年間を終えて…

最後の…

今年の御所湖祭り、盛岡さんさは私にとって出るのは最後でした。私は笛で参加しました。小学校一年生からさんさを始めて今年は九年間の集大成でした。盛岡さんさのパレードは前列でとても緊張しましたが、笑顔で踊る事ができました。前列は重要な所なのでした。

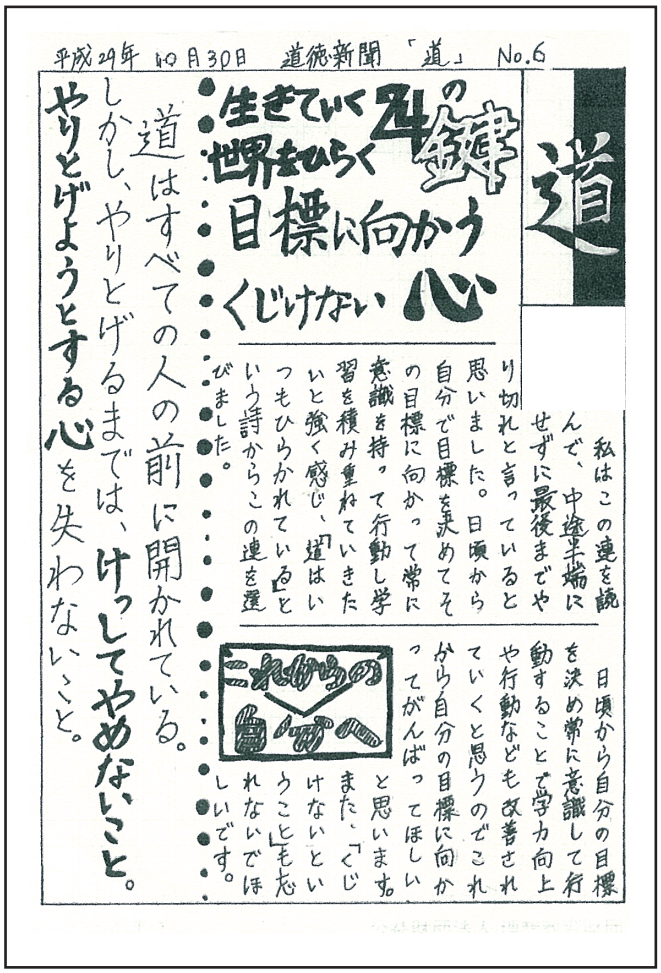
桐野先生へ

受け継ぐこころ

桐野先生には今年で九年間、お世話になりました。桐野先生はご高齢にもかかわらず、丁寧に教えてくださいました。さんさを好きになれたし楽しめたので良かったです。ありがとうございました。

伝

今年は授業でのさんさ練習の時に中学生が小学生に教えるという体制をとりました。このように教え合いをする事で繋の伝統が受け継がれるのだなと感じました。


平成29年10月30日 道徳新聞「道」No.6
道
生きていく24の鍵
世界をひらく
目標に向かう
くじけない心
道はすべての人の前に開かれている。
しかし、やりとげるまでは、けっしてやめないこと。
やりとげようとする心を失わないこと。
私はこの連を読んで、中途半端にせずに最後までやり切れと言っていると思いました。日頃から自分で目標を決めてその目標に向かって常に意識を持って行動し学習を積み重ねていきたいと強く感じ、「道はいつもひらかれている」という詩からこの連を選びました。
日頃から自分の目標を決め常に意識して行動することで学力向上や行動なども改善されていくと思うのでこれから自分の目標に向かってがんばってほしいと思います。また、「くじけないということ」も忘れないでほしいです。

平成29年7月18日歴史新聞「天下統一」No.3
天下統一
誰が一番ふさわしい？
織田信長
一五六〇 桶狭間の戦い 今川義元を討ち破る
一五七〇 姉川の戦い 浅井朝倉連合軍撃破
一五七五 長篠の戦い 鉄砲を活用した戦法で武田勝頼軍に勝利
戦が強く、鉄砲隊を使ったり キリスト教を保護したり、先を見通す力がある。武力だけでなく、民のため楽市楽座などを行った。
豊臣秀吉
信長の死後、後継者となり、天下統一を目指した。
秀吉は農民への支配力が強かった。
大閤検地 「ものさし」「ます」の大きさを統一し、厳しく検地をさせた。
刀狩 百性から武器を取り上げた。
兵農分離 武士と百性など身分区別をはっきりさせた。
戦が強い
先見の明がある
徳川家康
一六〇〇 関ケ原の戦い
一六〇三 江戸幕府を開く
幕藩体制 大名を親藩・譜代大名・外様大名に分けて全国に配置した。
武家諸法度 築城や結婚などに規制を設けて統制した。
参勤交代 一年おきに江戸に来るよう命じた。
トにスーリ統キ下長や天信隊が砲私織田鉄、るはしあの利がう勝明思でのと戦見いの先しくどわ多なさ教ふ

はがき新聞　実践報告　「走れメロス」

京都市立西院中学校　石田典子

国語

「物語の本当の面白さを伝える」

「走れメロス」の学習目標は、作品を読み、登場人物の行動や考え方について、自分の考えをもつことである。読みを深めると、描写や会話に着目して登場人物の人物像が変わっていくことも作品の面白さといえる。

読みの深まりを他者に発信するため、単元のゴール課題としてはがき新聞の作成を設けた。物語の謎解きを通して、初読の感想がどのように変化したか、それを限られた文字数でどのように表現すればよいか、言葉にこだわりながら書くことを意識づけた。新聞の読み手は同じ学年の他クラスの友達を想定させ、作品や作者の分析にまで発展させるような内容を考えるように指示をした。

対象　中学２年生

評価　新聞は　①題字（〇〇新聞）　②トップ記事、セカンド記事の見出し　③記事の内容　④作品の本当の面白さを漢字一字で表現した文字で構成されている。

評価観点は　①表記（字の美しさ・誤字・脱字）　②構成（レイアウト）　③内容　④選んだ漢字の説得性とする。

学習の経過

一年時より、はがき新聞を国語の教材、単元のゴール課題として位置付けてきた。

一年生の説明文「幻の魚は生きていた」では、筆者の主張の要約、環境について自分の意見、考えをまとめさせた。春休みの課題として、新入生に学校紹介新聞を作成させた。

二年生では、広島への修学旅行の事前学習として、平和をテーマにしたおすすめの書籍、絵本の紹介新聞を作成。学年末に本課題に取り組ませた。

また、授業や定期テストの問題にも地方紙、全国紙の記事の要約、意見文を書くことを定例化して、新聞というメディアに親しみながら学習をすすめた。

活動計画（２時間扱い）

１時間目

①学習課題は「走れメロス」の本当の面白さを伝える新聞を作成する。

②決められた割付けに従って鉛筆で下書きの線を引き、全体像を確認する。

③今までの学習を振り返り、初読の読みでは気づかなかったことをトップ記事に書く。
セカンド記事は漢字一字を説明する内容とする。

④新聞の題字、トップ記事の見出し、漢字一字は記事の下書きを終えてから書く。

⑤清書は家庭学習とする。

指導のポイント
作品の面白さは感じ方や捉え方が人によって違うので、効果的な見出しをつけさせる。
辞書を活用して、読者をひきつける言葉を選び、作者の太宰治の文体を参考にさせる。

２時間目
①新聞を班で相互評価する。
②評価観点は上記のとおり。
③相互評価を終え、自分の新聞を評価する。
④最後に新聞作成を通してどのような力が身についたか、自分の意見をまとめる。

おわりに
実践報告の講評として、桃山学院教育大学　今宮信吾先生より次のアドバイスをいただきました。
評価の観点を次期学習指導要領に照らし合わせ、表記は「知識・技能」、見出し、一字漢字は「思考力・判断力・表現力」、記事の内容は「学びに向かう力・人間性」に位置付けると何を書かせればいいかがより明確になる。

平成30年2月26日発行

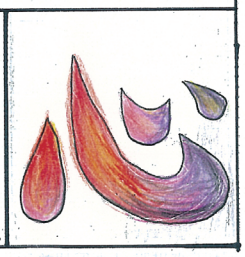
メロス新聞

メロスは本当にヒーローか?!

作者は物語の中である時は王や山賊として様々な試練を与え、人間の醜く弱い心を私達に知らしめた。メロスは困難にぶちあたり苦しむ私達と変わりない人間ではないだろうか。しかし、王の心まで変えたメロスはやはりヒーローと言えるのかもしれない。

漢字で表現しました

メロスの心情の変化が細かく描写されている。最後、王の心が変わったようにやはり人の心を動かせるのは人の心だ。優しく強い心に変化させたい。



平成30年2月26日発行

メロス新聞

お互い様の罪と罰

初読の印象は友情物語。でも実は、友情の二文字だけでは語れないモノがある。揺れ動く疑いの心。それを互いに告白し、罰し合う仲間。表面上ではない本当の絆があるからこそできることだ。果たして、今の私達に本当の絆は存在しているのだろうか。

「漢字」で表すと…。

二人共苦境に立たされ、一度きりの罪を犯した。それは疑う事。正義に真っ直ぐ生きる彼らにとっては、相手を一瞬疑うことさえも罪になるのだ。

平成30年2月26日発行

友情新聞

本当の友達とは何だろう?
困難の先に見えるもの——

人をどんどん殺し、信じる事のできない王様・ディオニスを許せないメロス。三日間という短い日限を得て、大切な友を人質にする。友を助け、王に見せつけるためメロスはひたすら走るのだが、そこに待ち受ける様々な困難。メロスは自分に勝てるのか。

心から友として愛する——

お互いに疑いを持ってしまったメロスと友は殴り合い、抱きしめ合う。ここまでするのは、心からお互いを愛しているからではないだろうか。

平成30年2月26日発行

韋駄天新聞

メロスVSディオニス

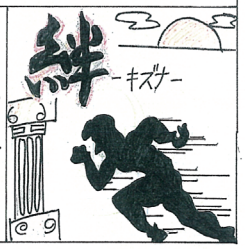
「疑うのが正当は心情えだ。」

「人の心を疑うのは最も恥じすべき悪徳だ。」

メロスは、必死に走る。親友のセリヌンティウスのために。命を懸けた悪夢の悲劇の始まりは…。シラクスの町にある王城で捕まり王とメロスは三日で帰る。と約束をした。その時に人質としたのがメロスの親友セリヌンティウスだ。だから走る。

絆

正直者のメロスと優しいセリヌンティウス。二人は友情の絆で固く結ばれてる。だから人質にされても疑わず帰って来るメロスを待ち続けた物語だ。



報告日：平成 30 年 4 月 25 日

公益財団法人理想教育財団　御中

〔所在地〕〒252-0301
神奈川県相模原市南区鵜野森１－１１－１

〔学校名〕　相模原市立鵜野森中学校

〔報告者名〕　榎本　典子㊞

〔電話〕　072-743-2292

実践「造形さがみ風っ子展　屋外展示　作品鑑賞新聞」

対象学年)　第１学年　針金人形～生き生きとしたしぐさを捉えて～
第３学年　抽象立体～形と色の挑戦～

❶学習のねらい

①表現活動を通して、何を考え学んだのか。制作終了後に活動を言語で振り返り、自己を見つめ今後に活かす態度を養う。
②相手に伝わるように、たのしめるように、構成の工夫をして取り組む態度を養う。

❷指導上の留意点

①「いつ　どこで　誰に　何を伝えるか」を明確にさせる。
②事実と自分の気づき・感じたことを区分けして構成させる。
③見る人の目を惹きつけるような、割り付けや構成、色と形の工夫をさせる。

❸生徒つぶやき（編集後記より）・鑑賞者の感想

生徒のつぶやき

A 新聞を書いていくと、どんどん作っていったときの楽しさがわき上がってきた。伝えることを、しっかりと書くことができた。
B この新聞を今作ることで、作品のことをもっと理解できるよい機会になった。こうしてみると、まだまだやれる部分があることもよくわかる。また作ってみたい。
C この作品を作る時に頭の中で様々な情景をイメージすることが楽しかった。この新聞にも工夫点を載せられてよかった。
D 抽象立体なので、多様な見方があるということに「はがき新聞」を書いてよくわかった。はがき新聞を書きながら、自分で思って作ったのと、他の人が見つけるのではずいぶん差が出ることを感じられた。作品とこの鑑賞新聞を見て、他の人が何を考えるのか興味深い。

E この作品をパッと見ての感じとともに、はがき新聞を読んで「なるほどな」と思ってくれれば幸いです。

鑑賞者の感想

A 見た印象もだが、子どもたちの心情に新聞を通して触れることができるので鑑賞が楽しかった。

B 見えない気持ちを見ることができて面白かった。

学習の成果と課題

①活動の振り返りができる。

②鑑賞者と思いを共感したり、違いを実感したりすることができる。

③より作品を多角的に見るのが楽しく、自他のよさの味わい方が深まる。

❺造形さがみ風っ子展　屋外展示の様子など

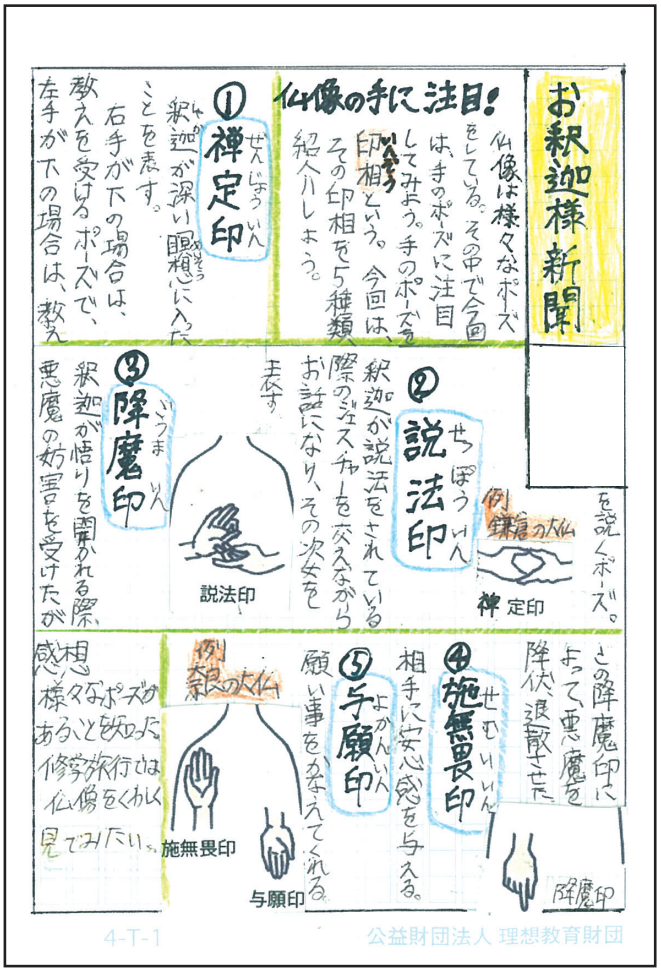
❻その他の実践

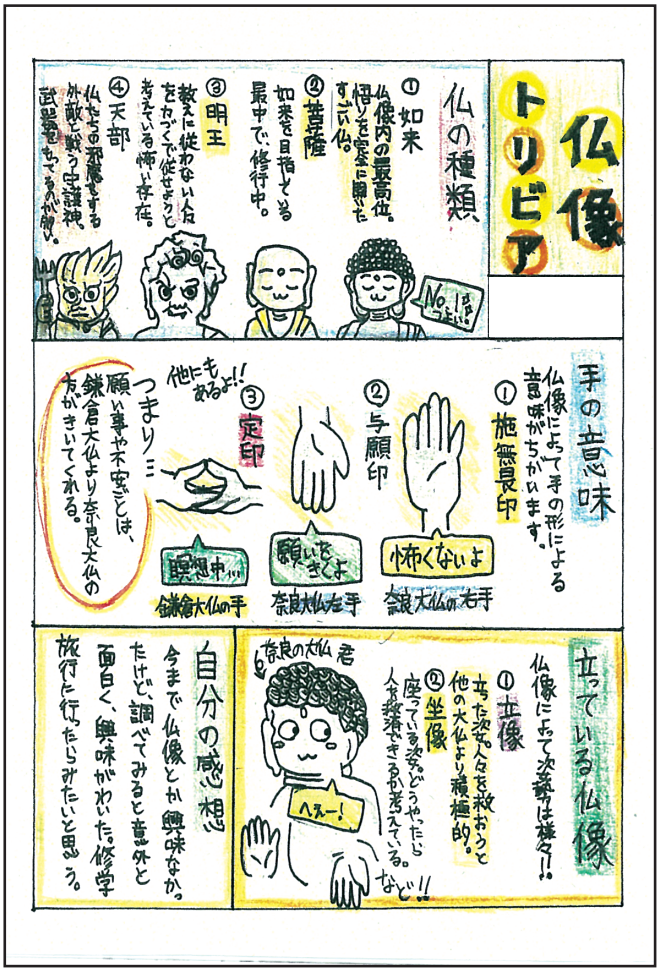
①仏像鑑賞～奈良・京都校外学習を活かした主体的・対話的な事前・事後学習

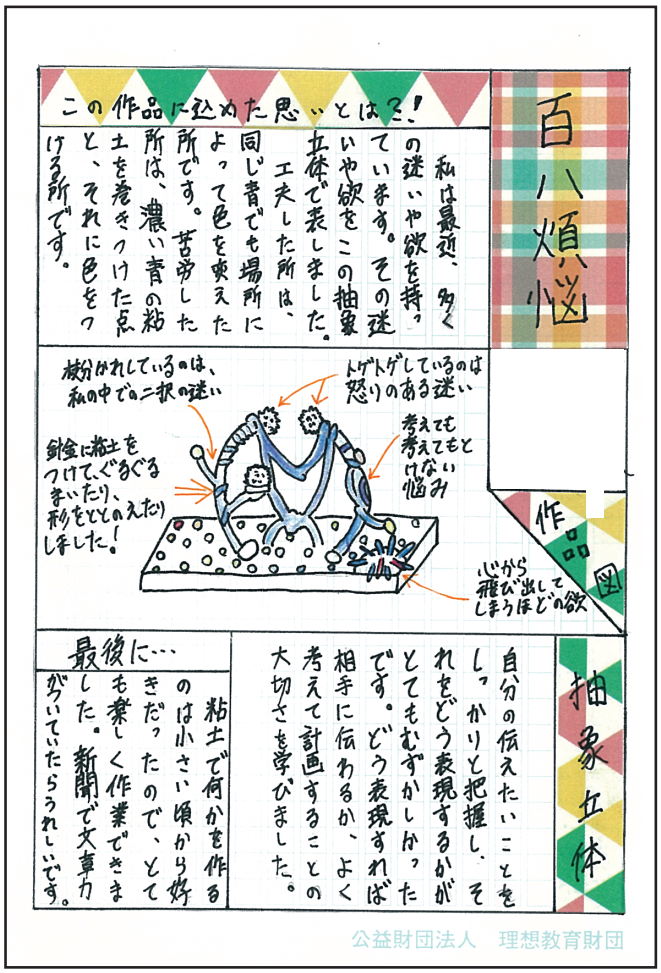
②福祉体験学習を活かした主体的・能動的・協働的な事前学習

仏像新報
仏像新聞
豆知識号
仏像の服装
仏像はそれぞれ着ている服が異なります。
①如来
全身を覆う一枚の布だけ
②菩薩
きらびやかアクセサリーをつける。
③明王
菩薩とほぼ変わらない武器所持
④天明
現世の人間に近い服装
如来
明王
天明
仏像好きの女の子という意味。すなわち仏像の魅力に惹かれて仏像鑑賞のために各地を遍歴する若い女性のこと。
だが基本仏像とは「ほとけの像」のことで悟りを開いた釈迦のことであり、宗教的なものなのだ。当然それぞれを深く信仰している宗教人がいる中、理解せずにメディアを通して自由な発言を残すため批判が多く集まっている。
仏のトップは大日如来!!
宇宙の全てを仏格化し、諸仏の根本の仏として位置づけられる。装身具も如来なのに同じようにつけている菩薩より いっそう豪華なものにされる。如来は基本、装身具を身につけない。
編集後記
普段は知ることのない仏像の内面のことを知れたのでよかった。楽しく作業できた。

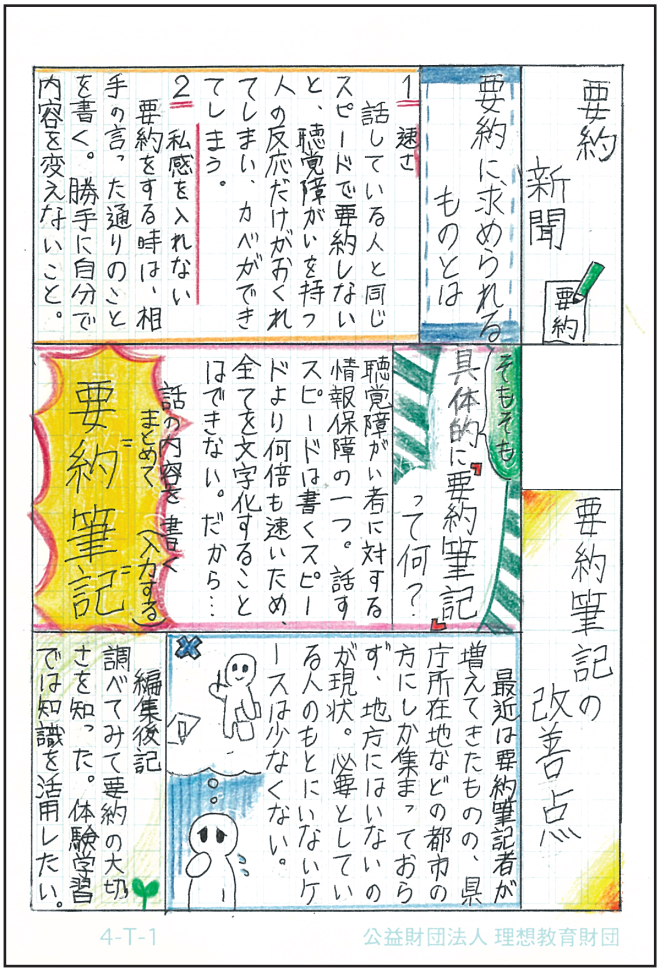
仏像の持ち物について
たくさん!! 仏像の持ち物の種類
持ち物説明
1 桑壺（そっこ）万病を治す薬が入っている。
2 羂索（けんさく）煩悩をとらえる五色の紐。
3 弓 武器。
4 蓮華（れんげ）清らかな心の象徴蓮の花。
5 経巻（きょうかん）巻物。
6 法輪 戦車の車輪。
7 宝珠（ほうじゅ）あらゆる願いをかなえる珠。
8 金剛杵（こんごうしょ）杵の形をした古代武器。
9 水瓶（すいびょう）不思議な甘露水が入っている。
10 鉢（はち）托鉢の容器。
11 錫杖（しゃくじょう）地面につくと音がなる杖。
12 宝剣 煩悩を断ち切る刀
13 戟（げき）突き刺す矛の一種。
ポイント
金剛杵はインドから伝わってきたもの。仏像の持ち物には外国の文化も取り入れられている。
仏像鑑賞を楽しもう!
仏像が持っている持ち物に注目してどんなご利益があるのかを予想してみると、楽しくなるかもしれません

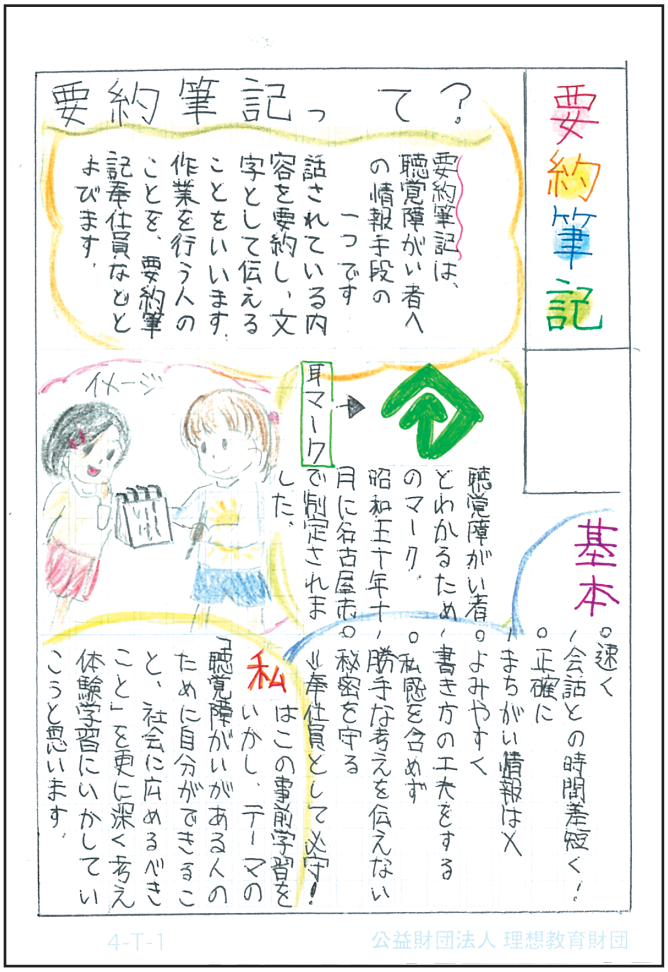

お釈迦様新聞
仏像の手に注目!
仏像は様々なポーズをしている。その中で今回は、手のポーズに注目してみよう。手のポーズを印相という。今回は、その印相を5種類紹介しよう。
①禅定印
釈迦が深い瞑想に入ったことを表す。
右手が下の場合は、教えを受けるポーズで、左手が下の場合は、教えを説くポーズ。
②説法印
釈迦が説法をされている際のジェスチャーを交えながらお話になり、その次女を表す
例 鎌倉の大仏
禅定印
説法印
③降魔印
釈迦が悟りを開かれる際、悪魔の妨害を受けたが、この降魔印によって、悪魔を降伏、退散させた。
④施無畏印
相手に安心感を与える。
⑤与願印
願い事をかなえてくれる。
例 奈良の大仏
施無畏印
与願印
降魔印
感想
様々なポーズがあることを知った。修学旅行では仏像をくわしく見てみたい。
4-T-1
公益財団法人 理想教育財団


仏像トリビア
仏の種類
①如来
仏像内の最高位。悟りを完全に開いたすごい仏。
②菩薩
如来を目指している最中で、修行中。
③明王
教えに従わない人々をわづくで従せようと考えている怖い存在。
④天部
仏たちの邪魔をする外敵と戦う守護神。武器をもっているのが多い。
No.1はつよい
手の意味
仏像によって手の形による意味がちがいます。
①施無畏印
②与願印
③定印
つまり
他にもあるよ!!
願い事や不安ごとは、鎌倉大仏より奈良大仏の方がきいてくれる。
瞑想中
鎌倉大仏の手
願いをきくよ
奈良大仏左手
怖くないよ
奈良大仏の右手
立っている仏像
仏像によって次第は様々!!
①立像
立った次々人々を救おうと他の大仏より積極的。
②坐像
座っている次々どうやったら人を救済できるか考えている。
奈良の大仏君
ヘスー!
など!!
自分の感想
今まで仏像とか興味なかったけど、調べてみると意外と面白く、興味がわいた。修学旅行に行ったらみたいと思う。


百八煩悩
この作品に込めた思いとは？！
私は最近、多くの迷いや欲を持っています。その迷いや欲をこの抽象立体で表しました。
工夫した所は、同じ青でも場所によって色を変えた所です。苦労した所は、濃い青の粘土を巻きつけた点と、それに色をつける所です。
枝分かれしているのは、私の中での二択の迷い
トゲトゲしているのは怒りのある迷い
針金に粘土をつけてぐるぐるまいたり、形をととのえたりしました！
考えても考えてもとけない悩み
心から飛び出してしまうほどの欲
作品図
抽象立体
自分の伝えたいことをしっかりと把握し、それをどう表現するかがとてもむずかしかったです。どう表現すれば相手に伝わるか、よく考えて計画することの大切さを学びました。
最後に…
粘土で何かを作るのは小さい頃から好きだったので、とても楽しく作業できました。新聞で文章力がついていたらうれしいです。
公益財団法人　理想教育財団

→yes→smile→enjoy→yell→laugh→hope→emotional→luck→
「休息のひととき」
image / 安らぎ、安心
abstract
抽象
①丸で、幸せや想像を表した。
②ポケットで、心のゆとりを表した。
③色を緑から黄緑色に変えて、日光が当たっているように見せた
④コケのようなひだで、長い時間を表した。
⑤青と緑の混色で、色に深みを出した。
⑥緑色そのもので、休らぎ、幸福を表した。
⑦筆で直接ぬることで、光沢が出るようにし、生命感を表現した。
⑧緑の大地をイメージし、全体に粘土をつけて表現した。
⑨上の面をくぼませ、人がそこで休むイメージにした。
⑩境目をつなぎ、生えているように
抽象立体製作の感想
新聞をつくっての感想
抽象立体は、制作の課程で、自分の感じたこと、思ったことを作品に様々な形で表現できる所が面白いと思いました。1つの感情を表現するにも、様々な方法があると気づくことができました。また、完成した後、新聞を作ったことで、自分の感じたことや思いを作品にどのように反映できたか、実感できて良かった。
→laugh→hope→emotional→luck→kind→dream→much→hap


要約新聞
要約
要約に求められるものとは
1 速さ
話している人と同じスピードで要約しないと、聴覚障がいを持つ人の反応だけがおくれてしまい、カベができてしまう。
2 私感を入れない
要約をする時は、相手の言った通りのことを書く。勝手に自分で内容を変えないこと。
そもそも具体的に「要約筆記」って何？
聴覚障がい者に対する情報保障の一つ。話すスピードは書くスピードより何倍も速いため、全てを文字化することはできない。だから…
話の内容を書くまとめて入力する
要約筆記
要約筆記の改善点
最近は要約筆記者が増えてきたものの、県庁所在地などの都市の方にしか集まっておらず、地方にはいないのが現状。必要としている人のもとにいないケースは少なくない。
編集後記
調べてみて要約の大切さを知った。体験学習では知識を活用したい。
4-T-1
公益財団法人 理想教育財団


要約筆記
要約筆記って？
要約筆記は、聴覚障がい者への情報手段の一つです
話されている内容を要約し、文字として伝えることをいいます。作業を行う人のことを、要約筆記奉仕員などとよびます。
イメージ
耳マーク
聴覚障がい者とわかるためのマーク。昭和五十年十月に名古屋市で制定されました。
基本
○速く
○会話との時間差短く！
○正確に
○まちがい情報はX
○よみやすく
○書き方の工夫をする
○私感を含めず
○勝手な考えを伝えない
○秘密を守る
奉仕員として必守！
私はこの事前学習をいかし、テーマの「聴覚障がいがある人のために自分ができること、社会に広めるべきこと」を更に深く考え体験学習にいかしていこうと思います。
4-T-1
公益財団法人 理想教育財団

発行 公益財団法人 理想教育財団 http://www.riso-ef.or.jp/
〒105-0004 東京都港区新橋 2-20-15 新橋駅前ビル1号館 TEL.03-3575-4313 FAX.03-3575-4315